長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第27集

UWABINO B-site・UWABINO C-site

上日野B遺跡・上日野C遺跡

基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査

2003. 3
長坂町教育委員会

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第27集

UWABINO B-site・UWABINO C-site

上日野B遺跡・上日野C遺跡

基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００３．３

長坂町教育委員会

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所に上る山梨県内でも有数の遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成14年度に基盤整備促進事業（日野地区）に伴い発掘調査を実施した上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡の調査報告書です。本遺跡からは縄文時代中期の住居跡や土坑のほかに、今次々と姿を消しつつある炭焼き窯跡など、縄文時代から現代に至る我々祖先の生活の痕跡が確認されました。日野地区ではこれまで大きな開発が比較的少なかったことから発掘調査が進んでこなかった経緯もあり、今回の調査は日野地区の歴史をひもといていく一つのきっかけとなることが期待されます。

今回の調査に対しましてご理解並びにご協力を頂きました日野地区の方々に感謝申し上げます。

本書が地域の方々を含め多くの方々のお役に立てれば幸いです。

2003年３月

長坂町教育委員会
教育長　小尾章臣

例　　言

1．本書は、2002（平成14）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町日野地内に所在する上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、基盤整備促進事業（日野地区）に伴う事前調査であり、長坂町役場産業課より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3．本書の執筆・編集は、長谷川誠（長坂町教育委員会非常勤職員）が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託した。
基準点測量・航空測量　　㈱シン技術コンサル

5．遺構・遺物の写真撮影は長谷川が行った。

6．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

7．発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。
閏間俊明（韮崎市教育委員会）

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構　調査区全体図：1/300
住居跡・竪穴状遺構：1/60
炉：1/30
土坑・石組遺構：1/30

遺物　縄文土器：1/3または1/4
黒曜石製剥片石器：2/3
それ以外の石器：1/3
土師器・須恵器：1/3
古銭：2/3

2．遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。

3．遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

黒色土器　須恵器
石器作業面

これ以外のものについては、各図版中に示してある

4．拓影図で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。

5．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

6．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡
目　　次

序
例言
本文目次
挿図目次
表目次
写真図版目次
第１章　調査の経過と概要……1
　第１節　発掘調査に至る経過……1
　第２節　発掘調査の概要……1
　第３節　基本層序……1
　第４節　発掘調査組織……1
第２章　遺跡の位置と環境……2
　第１節　地理的環境……2
　第２節　歴史的環境……2
第３章　上日野Ｂ遺跡……3
　第１節　遺構と遺物……3
　第２節　まとめ……5
第４章　上日野Ｃ遺跡……6
　第１節　遺構と遺物……6
　第２節　まとめ……6
引用・参考文献……6

挿図目次

第１図　上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡　周辺の遺跡分布図……7
第２図　上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡　周辺の地形と調査区の配置……8
第３図　上日野Ｂ遺跡全体図、基本層序、１号溝・２号溝セクション図……9
第４図　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡……10
第５図　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡遺物出土状況……11
第６図　上日野Ｂ遺跡　１号炭焼き窯、３号～６号土坑……12
第７図　上日野Ｂ遺跡　７号～12号土坑……13
第８図　上日野Ｂ遺跡　１号組石遺構、１号住居跡出土土器・石器……14
第９図　上日野Ｂ遺跡　出土土器・石器（１）……15
第10図　上日野Ｂ遺跡　出土石器（２）……16
第11図　上日野Ｃ遺跡全体図、基本層序、１号溝・４号溝セクション図、１号土坑……17・18
第12図　遺構外出土土器・石器・古銭……19

表　目　次

第１表　周辺遺跡分布一覧……7
第２表　上日野Ｃ遺跡出土土器集計表……19
第３表　上日野Ｃ遺跡出土土器観察表……19
第４表　上日野Ｃ遺跡出土石器観察表……19
第５表　上日野Ｂ遺跡出土土器集計表……20
第６表　上日野Ｂ遺跡出土土器観察表……20
第７表　上日野Ｂ遺跡出土石器観察表……20

写真図版目次

図版１　上日野Ｂ遺跡遠景（南より八ヶ岳を望む）
　　上日野Ｂ遺跡全景
図版２　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡（南から）
　　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡　石囲炉
　　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡遺物出土状況①
　　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡遺物出土状況②
　　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡遺物出土状況③
図版３　上日野Ｂ遺跡　１号溝
　　上日野Ｂ遺跡　１号石組遺構
　　上日野Ｂ遺跡　１号炭焼き窯
　　上日野Ｂ遺跡　出土土器・石器
図版４　上日野Ｃ遺跡遠景（東より甲斐駒ヶ岳を望む）
　　上日野Ｃ遺跡全景
図版５　上日野Ｃ遺跡　１号溝（西から）
　　上日野Ｃ遺跡　１号溝（南から）
　　上日野Ｃ遺跡　出土土器・石器・古銭
　　作業風景

第１章　調査の経過と概要

第１節　発掘調査に至る経過

2001（平成13）年度に、長坂町を事業主体とする基盤整備促進事業（日野地区）が始まった。それは、畑地利用再編対策の推進・農地の集積による機械化と省力化等、農業基盤整備を確立することを目的とし、日野地内の桑畑を中心とした畑地２地区（字上日野地内をⅠ工区・字池之平地内をⅡ工区とする）を対象にした区画整理事業で、それぞれの面積は約10ha・６haに及ぶ。

2001（平成13）年に町産業課から、事業対象地内について埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、教育委員会はⅠ工区において上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡、Ⅱ工区において池之平北遺跡が存在することを回答した。2002（平成14）年度に教育委員会は、上記の遺跡を含め、ほぼ確定した事業対象地内で６～８月にかけて試掘調査を実施（Ⅰ工区６～７月、Ⅱ工区７～８月）し、Ⅰ工区で３ヶ所・Ⅱ工区で４ヶ所の本調査が必要な範囲を町産業課に提示した。

その試掘調査結果を基に、町産業課と教育委員会が協議し、事業対象地の見直し及び工法の検討により、本調査予定地をⅠ・Ⅱ工区でそれぞれ２ヶ所に絞り込んだ。Ⅰ工区では上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡それぞれの一部を、Ⅱ工区では池之平北遺跡の範囲が拡大することが判明し、その内２地区を調査することとなった。また、調査年度に関しても協議の結果、Ⅰ工区は2002（平成14）年度、Ⅱ工区は2003（平成15）年度となった。

Ⅰ工区の発掘調査費は、2002（平成14）年９月の長坂町定例議会に補正予算を計上し承認を得た。同年10～11月の桑等の伐採作業が終了後、同年12月３日に上日野Ｂ遺跡の発掘調査を開始し、同年12月26日に終了した。2003（平成15）年１月７日に上日野Ｃ遺跡の調査に移り、同年２月７日に終了した。

第２節　発掘調査の概要

本調査予定地は、上日野Ｂ遺跡においては1,530㎡であり、上日野Ｃ遺跡においては1,325㎡であった。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッドを設定し、上日野Ｂ遺跡については南西端を原点として東から西方向に１～９、南から北方向にＡ～Ｇとグリッド番号を付け、同じように上日野Ｃ遺跡についても南西端を原点として、東から西方向に１～９、南から北方向にＡ～Ｅとグリッド番号を付けた。

調査は、耕作土が40～50㎝ほど堆積していたため、始めに重機によりこれらの耕作土を除去した。その後は人力で丁寧に遺構面の精査を行い、調査を進めていった。遺物は原則として光波測量機で出土原位置を記録しながら取り上げていった。遺構を確認した後は、その遺構の範囲の中から出土しているものについては、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図・遺物出土状況図等を平板実測あるいは簡易遣り方等の手作業により図化していった。また、調査の状況に合わせ、写真撮影を行った。遺構調査の終了後、２×２ｍのトレンチを新たに12基ほど設定し、旧石器時代の遺物・遺構の確認を行った。

整理作業については調査に並行して平成15年１月より洗浄・注記等の基礎整理を行い、本格的な整理作業を平成15年２月～３月にかけて行った。

発見された遺構は、上日野Ｂ遺跡については縄文時代中期中葉の竪穴住居跡１軒、土坑11基、時期不明の溝７条などである。上日野Ｃ遺跡については土坑１基、溝５条などである。

第３節　基本層序

ここで上日野Ｂ遺跡、上日野Ｃ遺跡の基本層序を述べておく（第３図、第11図）。一番上に第１層表土層がある。畑地であったため黒褐色の耕作土である。第２層褐色土層が続き、遺構確認面である第３層褐色土層に続く。第２層と比べ第３層はやや明るい色相である。第４層として黄褐色ローム層が続くが、遺構については第３層で確認が出来た。以下は第５層が御嶽軽石層であるＰｍ－Ⅰであり、第６層はシルトを多く含む黄褐色土層である。赤褐色の粘土層が第７層になるが、第４層以下については遺物は出土しなかった。

第４節　発掘調査組織

調査主体	長坂町教育委員会		
事務局	教育長	小尾章臣	
		（教育課長事務取扱兼務）	
	社会教育係長	日向明美	
	文化財担当	村松佳幸	
試掘担当	村松佳幸		
調査担当	長谷川誠		
発掘作業員	横山幸男	國府田孝吉	秋山かつゑ
	小林　裕	小林敏恵	小林立枝
	渡辺早月	大柴富子	畑　梅子
	名取初子	小尾トヨ子	宮原征人
	田中玲子	清水三恵	清水純代
	清井義雄	矢ケ崎健三	
整理作業員	吉田光雄	井出仁美	

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

上日野Ｂ・上日野Ｃ遺跡の所在する北巨摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する、南北約18㎞、東西約６㎞の細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起こった韮崎火砕流によって形成された台地上にあり、標高は北端の八ヶ岳権現岳が頂点で2,786ｍを測り、南端はＪＲ日野春駅の南側で約490ｍである。標高1,200ｍ以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した潅漑用水や潅漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水稲耕作が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

上日野遺跡の所在する日野地区は、塩川へ向け東を流れる鳩川と釜無川へ向け西を流れる大深沢川に挟まれた通称長坂台地と呼ばれる台地の西端に位置しており、釜無川の浸食によってできた急崖にかけて続く緩斜面地である。ＪＲ中央線、日野春～長坂駅間が地区の中心を通っており、今回の調査地は線路の西側にあたる。

第２節　歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の濃い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに210ヶ所ほどの遺跡が確認されている。上日野Ｂ・上日野Ｃ遺跡の立地する台地上も遺跡が数多く存在し、長坂町内でも遺跡の分布が濃い地域である。しかし日野地区に限ってはこれまで開発が少なかったことから、ほとんど遺跡の調査が行われてこなかった。

長坂上条遺跡は、昭和16年史前学研究所の大山柏氏を中心に県内としては初めての学術調査が行われた遺跡である(大山柏他1941)。縄文時代後晩期の配石墓群が発見され、弥生時代の遺物も出土している。2003年にも町教育委員会による発掘調査が行われ、古墳時代、平安時代の住居跡が確認されている。

また、現山梨県酪農試験場地内にある酒呑場遺跡は、縄文時代前期から中期にかけての大集落跡である。1994（平成６）～1996（平成８）年と2001（平成13）年に山梨県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期～中期の住居跡200軒以上が発見されている（野代1997、保坂1997･1998)。遺物も、縄文時代中期を主体にして早期から後期までの土器・石器が整理箱1，400箱分にものぼる多量の遺物が出土している。それと合わせて古墳時代前期の集落も発見されている。

上日野Ｂ・上日野Ｃ遺跡周辺でも、いくつかの遺跡が発掘調査されている。北村遺跡からは、古墳時代前期の方形周溝墓６基が発見された(小宮山1996)。広域農道整備に先立ち1994（平成６）～1995（平成７）年にかけて長坂町教育委員会が発掘調査を実施し、方形周溝墓の墳丘がほぼ完全な状態で発見された。

龍角西遺跡は、1997（平成９)、1998（平成10）年に発掘調査が行われている。古墳時代前期末から中期の竪穴住居跡10軒、平安時代の竪穴住居跡７軒、掘立柱建物跡６棟、中世の建物跡２棟などが発見されている。

1991（平成３）年には龍角西遺跡に隣接する龍角遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代中期の住居跡が数軒発見された。八ヶ岳南麓で古墳時代前期末から中期にかけてのまとまった集落の調査例はなく、県内でも特に資料の少ない古墳時代中期の土器編年および集落研究にとって、貴重な資料となった。

原町農業高校前遺跡は、県立北杜高校の校舎建設に伴い県埋蔵文化財センターにより、2001（平成13）年に発掘調査された。縄文時代の拠点集落であり、縄文時代中期中葉から後半を中心に100軒以上の住居跡が検出された。土偶が50点以上も出土し、ヒスイの原石などの稀少品も確認されている。

釜無川流域では、白州町の根古屋遺跡が良く知られている。釜無川の支流である尾白川右岸の河岸段丘上に位置しており、台ヶ原根古屋地区の圃場整備に伴い1984（昭和59）年に白州町教育委員会によって発掘調査された。縄文時代中期後半を中心として、竪穴住居跡13軒、土坑26基、竪穴状遺構１基が検出された。県下でも発見例の少ない縄文時代前期初頭に属する住居址も確認されており、注目される（平野1985)。

同じく釜無川流域では武川村の宮間田遺跡がある。圃場整備に伴い1985（昭和60）年と1986（昭和61）年にかけて武川村教育委員会によって発掘調査が実施された。平安時代を中心に竪穴住居跡94軒、掘立柱建物跡１棟、土坑269基、溝状遺構２条が検出された。78号住居からは「牧□」と書かれた土師器片が発見された。本遺跡の周辺には牧原という地名が残り、古代の勅旨牧の一つである真衣野牧が該地におかれたと考えられてきたが、この説を補強する資料となった。

第３章　上日野Ｂ遺跡

第１節　遺構と遺物

1．住居跡

１号住居跡

（位置）　Ｅ－６・７グリッド。

（形状）　南東部だけがやや大きく膨らむが全体的にはやや長径が長い楕円形を呈する。

（規模）　住居跡の長径412cm、短径は377cm、深さは12cm～34cmを測る。

（床面）　石囲炉から柱穴の間にかけて硬化面が認められた。特に北側から東側にかけて明瞭なる硬化面が広がりとして確認された。西側から南側については硬化面が広がりを持たず、点在する様子が確認された。

（施設）　石囲炉が住居中央やや北よりに構築されている。長さ10～30cmほどの礫７個を長方形に並べて炉石としている。北西端に据えられている炉石は、磨石を転用したものである。炉内覆土からは焼土がほとんど検出されず、火焼面も認められなかった。しかし西側の炉石の下からは、火焼面が検出され、掘り方の内壁も西側から南側にかけては強い被熱を受けていることが確認された。掘り方は、東側では炉石の８cmほど外側に作られているのに対し、北側や西側では炉石から20cm以上離れたところから掘り込まれている。

柱穴は６基確認できた（１～６ｐ）。３ｐと６ｐの２基のピットについては他の４基のピットと軸がずれることから、おそらく主柱穴は１ｐ、２ｐ、４ｐ、５ｐの４基になると考えられる。また、住居内のピットは以下のとおりである。（数値は長径×短径×深さの順、単位はcm。）

１ｐ	85.1×72.3×38.2	４ｐ	43.9×38.3×24.8
２ｐ	46.5×43.1×34.9	５ｐ	46.4×40.2×33.5
３ｐ	50.1×43.1×34.9	６ｐ	52.7×48.6×19.1

（遺物）　第８図。１～２は縄文時代中期中葉藤内式の土器である。１は胴下半部以下全体の約１／３が欠損している。４単位の波状口縁をもつ。口縁部の下には低隆帯で楕円区画文を配置し、さらにその下の縄文帯をはさむように２本の隆帯で区画し、中に低隆帯を蛇行させる。それぞれ隆帯の周りには三角押文をめぐらせることから藤内式でも古手に属するものであろう。２は下半部以下全体の１／２が欠損している。胴部はパネル文により区画されており、区画内には縄文を充填した後玉抱き三叉文を施している。３は中期中葉の底部である。胴部から底部にかけての括れが緩やかなことから、井戸尻式まではくだらないであろう。４は綾杉文が施された曽利Ⅳ式である。石器は打製石斧１点、横刃形石器１点、楔形石器１点、ドリル１点の４点である。

（遺物出土状況）　遺物量は少ない。土器については、破片資料をあわせても、６個体の土器しか出土していない。１は、住居中心付近の床面から覆土上面にかけて出土しており、およそ住居覆土第１層のなかから出土していることから、住居廃絶後埋没していく過程で廃棄されたものと考えられる。

（時期）　出土土器より縄文時代中期中葉の藤内式期と考えられる。

（備考）　炉については、火焼面をもつ炉から石囲炉へと作り変えたものと考えられる。

1．土坑

３号土坑

（位置）Ｄ－４グリッド。（形状）基本的には円形であるが、一部袋状を呈する。（規模）長径96.1cm、短径89.8cm、深さ56.3cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）１号炭焼き窯に伴うものと考えられることから現代のものである。（備考）覆土内は１号炭焼き窯からかき出されたと思われる炭化物や灰が大量に検出された。

４号土坑

（位置）Ｄ－４グリッド。（形状）円形を呈する。（規模）長径39.3cm、短径89.8cm、深さ37.5cmを測る　（遺物）出土していない　（時期）１号炭焼き窯に伴うものと考えられることから現代のものである。（備考）覆土内からは１号炭焼き窯からかき出されたと思われる炭化物や灰が大量に検出された。

５号土坑

（位置）Ｅ－７グリッド。（形状）円形を呈する。（規模）長径155.1cm、短径145.2cm、深さ52.0cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

６号土坑

（位置）Ｃ－８グリッド。（形状）不正円形を呈する。（規模）長径248.1cm、短径211.6cm、深さ130.3cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

７号土坑

（位置）Ｅ－７グリッド。（形状）円形を呈する。（規模）長径61.4cm、短径59.6cm、深さ77.6cmを測る。（遺物）縄文土器片が１点出土した。（時期）出土遺物から縄文時代であろう。

8号土坑

（位置）Ｆ－７グリッド。（形状）楕円形を呈する。（規模）長径89.5cm、短径68.8cm、深さ26.1cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である

9号土坑

（位置）Ｆ－７グリッド。（形状）不整円形を呈する。（規模）長径（215.3）cm、短径219.2cm、深さ93.0cmを測る。（遺物）二次加工のある砂岩製の剥片が出土している。（時期）遺物から縄文時代と考えられる。

10号土坑

（位置）Ｆ－７グリッド。（重複）11号土坑、12号土坑を切る（形状）円形（？）を呈する。（規模）長径96cm、短径？、深さ48cmを測る。（遺物）出土していない（時期）不明である（備考）11号、12号土坑の覆土内に作られていたため、正確な形状は不明である。覆土からは焼土が検出されており、全体的にも熱を受けてボソボソであった。

11号土坑

（位置）Ｆ－７グリッド。（重複）10号土坑に切られる（形状）楕円形を呈する。（規模）長径？、短径161cm、深さ81cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

12号土坑

（位置）Ｆ－７グリッド。（重複）10号土坑に切られる（形状）楕円形を呈する。（規模）長径？、短径124cm、深さ104cmを測る。（遺物）縄文時代中期の土器片が１片出土している。（時期）出土遺物から縄文時代中期に比定されよう。

3．その他の遺構

１号溝

（位置）Ｃ－３・４・５・６・７・８グリッド。（重複）２号溝、５号溝に切られている。（形状）等高線に対し並行するように、東西方向にほぼ一直線に走っている。（規模）長さ51.1m、幅（西端）135cm、（中央）205cm、（東端）160cm、深さ（西端）21.3cm、（中央）19.7cm、（東端）21.5cmを測り、調査区外にも続いている。（遺物）縄文土器や土師器などが数点検出されている。（時期）不明である。（備考）溝の西部では断面を見ると（第３図）、底部に近い部分に細かい土層の堆積がみられ、第４層、第５層では硬化面が明瞭に見られた。この二つの層については人為的な堆積とみることができるであろう。

２号溝

（位置）Ｃ－４、Ｄ－４、Ｅ－４、Ｆ－５・６グリッド。（重複）１号溝を切る（形状）Ｃ－４グリッドからＤ－４グリッドまでは南北に真っ直ぐに走っているが、Ｆ－５グリッドからは北東方向に走る。（規模）調査区内での長さ33.5m、幅（北端）115cm、（中央）58cm、（南端）52cm、深さ（北端）、（中央）21.6cm、（南端）36.1cmを測り、北側については調査区外にも続いていると考えられる。（遺物）中～近世の土器、近～現代の陶磁器などが覆土上部から出土している。（備考）Ｅ－４グリッドで途切れている形になっているが、形状や覆土がそれぞれ同様の傾向をもつため、同一遺構と考えた。底部が四角い形状から時期的には新しいものであることは間違いないが、時期の決め手になるような遺物などもなく用途についても不明である。

３号溝

（位置）Ｅ－４、Ｅ－５、Ｅ－６、Ｄ－６グリッド。（形状）北西から南西方向にほぼ直線を呈する。底部には不整形のピットがいくつか認められる。（規模）長さ23.3m、幅（西端）54cm、（中央）52cm、（東端）76cm、深さ（西端）10cm、（中央）15cm（東端）８cmを測る。（遺物）石鏃や土師器などが数片検出されている。23は黒色土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部が真っ直ぐに立ち上がることや玉縁化していないことなどから、甲斐型編年Ⅷ～Ⅹ期に併行すると考えられる。24は縄文時代の石鏃である。基部については両者とも欠けてしまっている。（時期）不明である。

４号溝

（位置）Ｄ－４・５グリッド（形状）東西方向にほぼ直線を呈する（規模）長さ11．４m、幅（西端）59cm、（中央）121cm、（東端）78cm、深さ（西端）14cm、（中央）23cm、（東端）14cmを測る。（遺物）出土していない（時期）不明である。

５号溝

（位置）Ｃ－３、Ｃ－４グリッド。（重複）１号溝を切る。（形状）南北にほぼ真っ直ぐに走っているが、西側にやや曲がっていく。（規模）長さ4.8m、幅（北端）24cm、（中央）58cm、（南端）69cm、深さ（北端）4.5cm、（中央）6.4cm、（南端）8.2cmを測る。（遺物）出土していない。

6号溝

（位置）D－7グリッド。（形状）南北方向にほぼ直線に走っている。（規模） 長さ9.1m、幅（北端）24cm、（中央）50cm、（南端）33cm、深さ（北端）7cm、（中央）12cm、（南端）7cmを測る。（遺物）出土していない。

7号溝

（位置）D－5グリッド （形状）東西方向にほぼ直線に走っている。（規模） 長さ5.9m、幅（西端）41cm、（中央）58cm、（東端）45cm、深さ（西端）24.1cm、（中央）21.5cm、（東端）10.2cmを測る。（遺物）出土していない。

1号炭焼窯

（位置）D－4グリッド。（形状）調査区内では半楕円形を呈する。3段のテラスからなり、階段状になっている。（時期）現代である。（備考）窯の炊き口部に降りるための入り口部であり、3段のテラスを階段状に構築している。地元の方の話によれば、40年ほど前につくられ、20年ほど前まで使用されていたようである。調査前の現況は、入り口部から焚き口部までは完全に土で埋まっていた。燃焼部については完全には埋まっていなかったものの、瓦礫や木の枝などで覆われていた。

1号組石遺構

（位置）C－8グリッド。1号溝東端の覆土上部につくられている。（形状）東西方向に2本の列状に石を配置している。（規模）北側の列の長さが229cm、南側の列の長さが251cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。1号溝の覆土の上につくられていることから1号溝よりは新しい。（備考）北側の列は礫の上面の高さがほぼそろっており、2列が相対する内側の面がきれいにそろうのに対し、南側の列は石の上面の高さがまちまちで、内側の面もそろわず、石同士の間が所々開くなどの違いがある。南側の石列は礫が原位置を留めていない可能性もある。2本の石列は東に行くほど両者の間隔が狭まる。石列の内側からは硬化面や水の通った形跡は認められなかったことから、道路状遺構や水路跡ではないことは明らかであるが、用途は不明である。

3. 遺構外出土遺物

10は中期中葉の浅鉢の口縁部である。11はパネル文をもつ藤内式の胴部である。12～15は、櫛歯状工具により褶曲文が描かれた曽利Ⅴ式の胴部である。同一個体と考えられる。16は微隆起線による懸垂文が施されており、中期後半と考えられる。18、19は須恵器甕の胴部である。平安時代の所産である。20、21は中世～近世の所産である。21は内耳土器の破片である。22は羽甕である。26～30は打製石斧である。30は撥形であるが他のものについては短冊形を呈する。31は横刃形石器、32～38は二次調整のある剥片である。40は磨石である。四面の内磨り痕の無い二面は、凹石として利用している。

第2節 ま と め

縄文時代の住居跡は1軒しか検出されなかった。1号住居跡は、出土遺物から縄文時代中期中葉藤内式期の住居と判明したが、この時期の住居跡としては遺物の量が少ないのが特徴である。細かい破片をあわせても全部で6個体の土器しか出土しておらず、復元できたものについては2個体しかない。また石囲炉の中から焼土が検出されず、火焼面も検出されていない。遺物量の多さ、炉の使用の度合、立替の痕跡など住居の長期的な利用を測る指標はいくつかあるが、1号住居跡については短期的な利用を想定させる事象が多い。

調査区内で検出された住居はこの1軒のみであり、他に住居跡は検出されていない。遺構外からの出土した遺物を見ても、中期中葉と判別された土器は2点しか出土していないことから、周辺に藤内式期の住居跡が存在している可能性は低い。これらのことから1号住居跡は一時的な居住地であった可能性が高い。

溝については、7条が検出されたものの、すべて時期用途ともに不明であった。しかし2号溝が地境の位置にあたるとの話もあることから、今後聞き取り調査や古い地図と照合するなどして、これらの溝についても歴史的意義を解明していきたい。

1号炭焼き窯は、地域の方の話からおよそ20年ぐらい前まで使われていたことが分かった。実際に調査区内から検出されたのは焚き口への入り口部分だけである。

昭和20年代全県下で炭窯数は5250基ほどあったとされる（長坂町誌編纂委員会 1990）。特に日野地区はかつては「日野のクヌギ黒炭」特一等菊丸炭の産地として良く知られ、炭窯による木炭の生産が盛んに行われていたようである。炭焼きの時期は農閑期である晩秋から早春ごろまででであった。木炭はエネルギー源として利用されていただけでなく、蚕の温度飼いに使われるなど、各種の生業と密接に関わるものであった。かつての盛行は現在では見る影もなく、様々な代替エネルギーの登場とともに炭焼きは行われなくなっていった。炭窯自体も現在さまざまな開発や土地改良に伴い消滅しつつある。山村の生活を支えた歴史的資料として、記録に残していく必要があるのではないだろうか。

第４章　上日野Ｃ遺跡

第１節　遺構と遺物

1．土坑

１号土坑

（位置）Ｂ－７グリッド。（形状）楕円形を呈する。（規模）長径156cm、短径94cm、深さ71cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

2．溝

１号溝

（位置）Ａ－４、Ｂ－４、Ｃ－４・５・６・７グリッド。（形状）　Ａ－４、Ｂ－４、Ｃ－４グリッドまでは南北に延びているが、そこから東に向きを変え、Ｃ－７グリッドまで延びている。断面の形状は、上層からは緩やかに切り込まれるものの、中心部ではさらに一段深くなる。（規模）長さ45m、幅（南端）127cm、（中央）135cm、（東端）114cm、深さ（南端）51cm、（中央）87cm、（東端）102cmを測る。調査区外まで延びていると考えられる。（遺物）覆土上部より近現代の瓦が出土している。（時期）出土遺物から近代以降のものであろう。

２号溝

（位置）Ｂ－２・３・４グリッド。（形状）東西方向に真っ直ぐに走る。（規模）長さ21.8m、幅（西端）52cm（中央）83cm、（東端）79cm、深さ（西端）５cm、（中央）23cm、（東端）13cm。（遺物）寛永通寶６枚（第12図10～15）がまとまって出土した。（時期）不明である。（備考）厳密に見ると４条の溝である。しかし壁もくっついてしまっており、分けることが難しかったため、ここでは１条の溝とした。４本の溝が平行することや、深さも10cm前後と浅いことから、かつて畑地であったときの畝の跡である可能性が高い。古銭が６枚まとまって出土し、六文銭の可能性があったが、上部に土坑があったかどうかは確認できなかった。

３号溝

（位置）Ｂ－２・３グリッド　（形状）北西方向にほぼ一直線に走っている。（規模）長さ9.5m、幅（西端）49cm、（中央）52cm、（東端）32cm、幅（西端）８cm、（中央）16cm、（東端）６cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

４号溝

（位置）Ａ－４、Ｂ－４・５・６グリッド。（形状）緩やかにカーブをしながら南西－北東方向に走る。（規模）長さ22.5m、幅（南端）164cm、（中央）123cm、（東端）155cm、深さ（南端）20cm、（中央）60cm、（東端）54cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

５号溝

（位置）Ｂ－５・６・７グリッド。（形状）一部南側の掘り込みが確認されず、段切り状を呈する。（規模）長さ20.1m、幅（西端）27cm、（中央）60cm、（東端）34cm、深さ（西端）16cm、（中央）18cm、（西端）15cmを測る。（遺物）出土していない。（時期）不明である。

3．遺構外出土遺物

１は胴部にハの字文が施されている。曽利Ⅴ式。２～４は打製石斧、５～７は横刃石器、８は不定形石器、９は二次調整のある黒曜石製の剥片である。

第２節　まとめ

上日野Ｃ遺跡からは、土坑１基、溝５条が検出された。遺物も少ないことから、ほとんどの遺構については時期が判別できなかった。１号溝の年代が近現代であるので他の溝についても同時期である可能性が高い。

溝の用途については、根切り溝、畑の区画溝、畑の畝などいくつか想定はされるが、今回の調査では分からないことが多かった。今後聞き取り調査や、古い図面などから日野地区の土地利用の変遷をたどりながら、これらの溝についても用途を確定していき、本遺跡の歴史的な意義を解明していきたい。

参考文献

大山柏・竹下次作・井出佐重　1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13－３史前学会

小宮山隆　1996『北村遺跡』長坂町教育委員会

長坂町誌編纂委員会　1990『長坂町誌』下巻　長坂町

野代幸和　1997『酒呑場遺跡（第１・２次）』（遺構編）山梨県教育委員会

平野　修　1985『根古屋遺跡』白州町教育委員会

保坂康夫　1997『酒呑場遺跡（第３次）』（遺構編－前編）山梨県教育委員会

保坂康夫　1997『酒呑場遺跡（第３次）』（遺構編－後編）山梨県教育委員会

宮沢富美恵　1999「炭焼き」『山梨の歴史景観』山梨郷土研究会編山梨日日新聞社

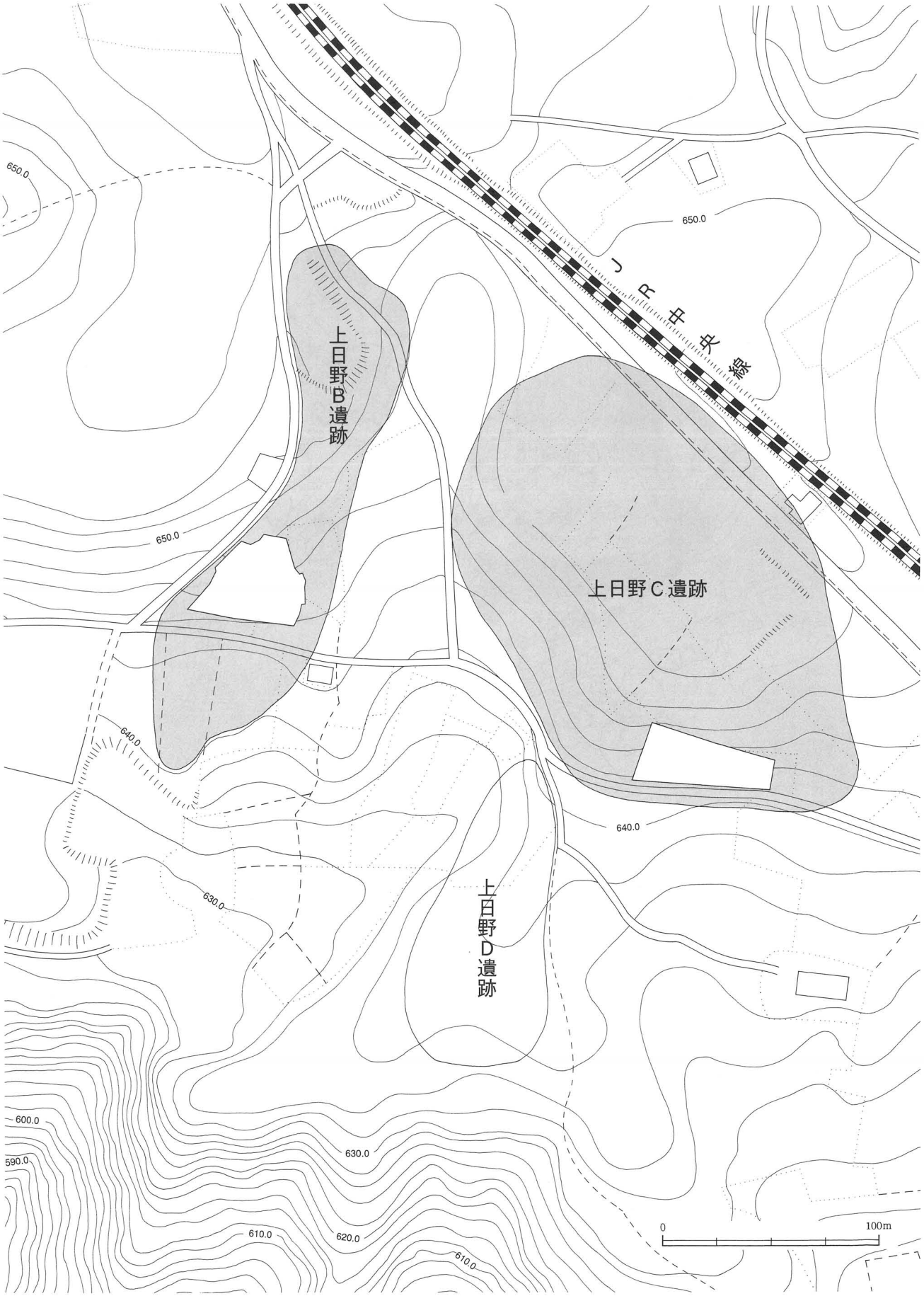
第１図　上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡周辺の遺跡分布図

第１表　周辺遺跡分布一覧

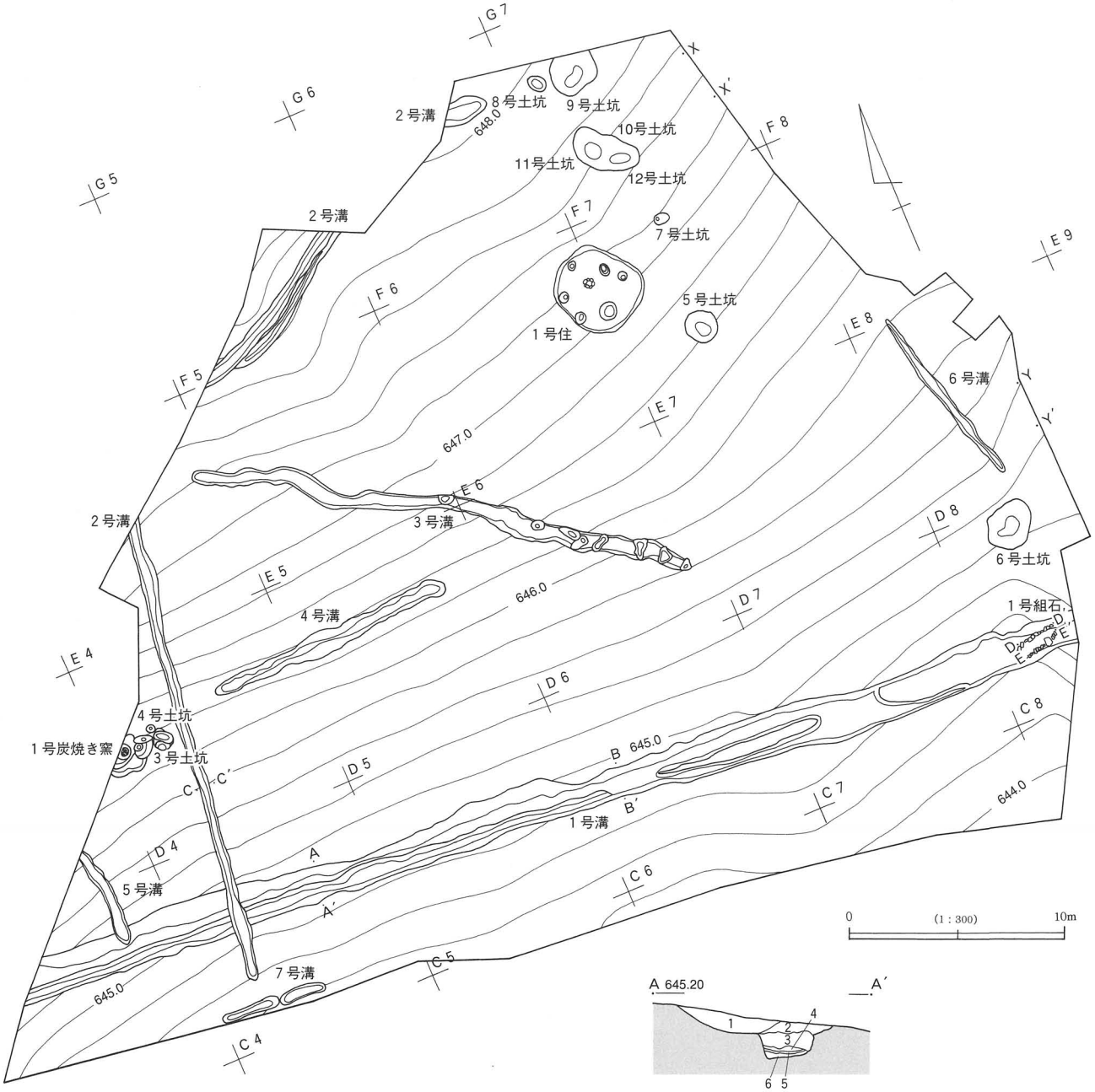
88　城山上北遺跡　縄 平 中 江戸
89　城山上遺跡　縄 中
90　中丸砦址　戦国
91　居久保遺跡　縄 平
92　清春白樺美術館南遺跡　縄
93　細久保遺跡　縄
102　酒呑場遺跡　旧石 縄 古 平 江戸
103　東村Ａ遺跡　縄 奈 平 中 江戸
104　東村Ｂ遺跡　古 平 中 江戸
105　中村遺跡　古 平 中 江戸
106　錨田遺跡　平
107　西村遺跡　古 平 中 江戸
108　中反遺跡　縄 平
110　長坂氏屋敷址　古 平 中
123　原町北遺跡　古 平
124　原町遺跡　江戸
125　上久通北遺跡　縄 平
129　宮久保遺跡　縄
134　寺前遺跡　縄 平 中
135　上久通遺跡　縄
136　反田遺跡　縄 平 中
137　三井氏屋敷址　中 江戸
138　北村遺跡　縄 古 平
139　新居遺跡　縄 平 中
140　相吉氏屋敷址　中
141　相吉遺跡　奈 平
142　植松氏屋敷址　中
143　下屋敷遺跡　縄
144　向原遺跡　平
146　三ツ墓古墳２　古
147　農業高校前遺跡　縄
148　三ツ墓古墳３　古
149　三ツ墓古墳１　古
150　池ノ平昭和堤北遺跡　縄
151　池ノ平Ａ遺跡　縄 奈 平
152　向井丹下屋敷址　中
153　池ノ平Ｂ遺跡　縄
154　上日野遺跡　縄 江戸
155　田中氏屋敷址　中
156　上日野Ａ遺跡　縄 平
★157　**上日野Ｂ遺跡　縄 平**
★158　**上日野Ｃ遺跡　縄 平**
159　姥久保遺跡　古 江戸
162　富岡遺跡　江戸
167　西屋敷遺跡　古
169　龍角西遺跡　縄 弥 古 平 中 近代
170　龍角遺跡　縄 古 平 中
171　長坂上条遺跡　縄 弥 平 中
172　西久保遺跡　縄
174　長坂下条・藤塚遺跡
175　和田遺跡　弥 古
176　古屋敷遺跡　縄
179　渋沢・上町遺跡　縄
180　下屋敷北遺跡　縄 平
184　北村北遺跡　縄 平
185　酒呑場東遺跡　縄 弥 平
186　山本遺跡　縄
187　北村東遺跡　縄 古
188　大久保遺跡　縄 中
190　池ノ平北遺跡　縄 平
191　清水頭遺跡　縄 平
195　紺屋遺跡　縄 平 中
199　下原遺跡　縄
200　下日野遺跡　縄
206　長坂上条・藤塚遺跡
208　段道遺跡　旧石 縄 平
209　上日野Ｄ遺跡　縄

白州町
13　中台１遺跡　縄 平
15　根古屋遺跡　縄 中
16　屋敷平遺跡　縄 弥 平 中
17　押野遺跡　縄 弥 平 中
47　中原遺跡　縄 平
48　祭の神１遺跡　縄 平
49　祭の神２遺跡　縄 平 中
67　深沢砦跡　中

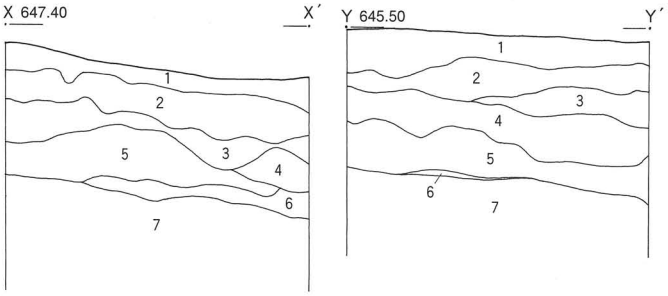
武川村
27　中村遺跡　中
28　下町遺跡　中
29　西久保Ａ遺跡　中 近世
30　坂上Ａ遺跡　縄 中 近世
31　坂上Ｂ遺跡　中 近世
32　西久保Ｂ遺跡　奈 平 中 近世
33　山田Ａ遺跡　近代
34　山田Ｂ遺跡　中 近世
35　山田Ｃ遺跡　中 近世
36　新左エ門原遺跡　弥 中 近世
37　富貴野遺跡　縄
38　御崎遺跡　縄 平 近世
39　宮間田遺跡　平
40　尾崎Ａ遺跡　中 近世
41　御崎Ｂ遺跡　平
42　堂仏寺遺跡　中 近世
46　下田中遺跡　中 近世



第２図　上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡周辺の地形と調査区の配置



上日野Ｂ遺跡全体図

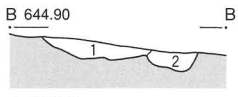


基本層序

① 表土　しまり非常に弱い　粘性弱い　φ１～３㎜ローム２％含む
② 褐色土　しまりやや強い　粘性強い
③ 明褐色土　しまり強い　粘性強い　φ１～10㎜ローム10％含む
④ 黄褐色土　しまり強い　粘性やや強い　φ10～60㎜ローム90％含む
ハードロームとは違う
⑤ 黄褐色土　しまり強い　粘性強い　φ10～20㎜ローム50％含む
⑥ 黄土　しまり強い　粘性非常に強い　シルトを含む
⑦ 赤褐色土　しまり非常に強い　粘性強い　粘土　地山

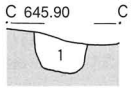
１号溝Ａ

① 黒褐色土　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ１～５㎜ローム２％含む
② 暗褐色土　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ１～３㎜ローム２％含む
③ 明暗褐色土　しまり強い　粘性やや弱い　φ１～10㎜ローム15％含む
全体的に土が乱れている
④ 暗褐色土　しまり非常に強い　粘性強い　φ１～５㎜ローム２％含む
⑤ 黒褐色土　しまり非常に強い　粘性非常に強い　φ１㎜ローム３％含む
⑥ 明暗褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ１～５㎜ローム10％含む



１号溝Ｂ

① 黒褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
φ１～５㎜ローム３％、φ１㎜炭化物１％含む
② 褐色土　しまりやや強い　粘性強い
φ５～10㎜ローム７％、φ１～５㎜ローム２％、φ１㎜炭化物２％含む

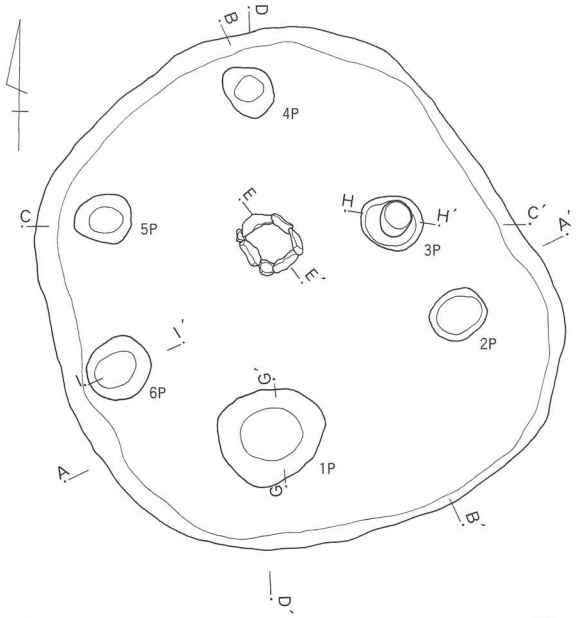


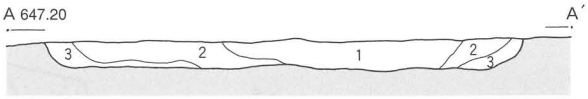
２号溝

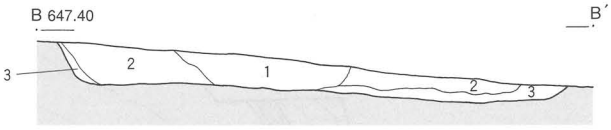
① 暗褐色土　しまり弱い　粘性弱い　φ１～５㎜ローム15％含む
埋土と思われる

0　(1 : 60)　2m

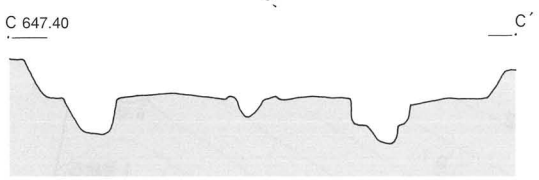
第３図　上日野Ｂ遺跡全体図、基本層序、１号・２号溝セクション図

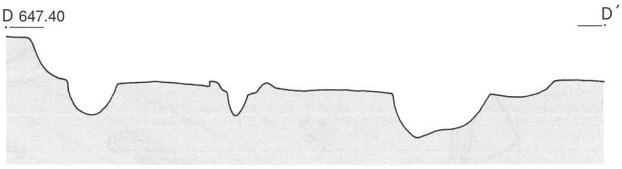


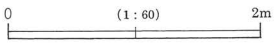


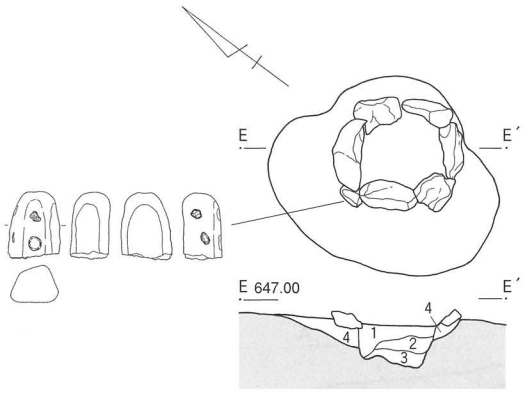


1号住A　B
① 暗褐色土　しまりやや強い　粘性やや弱い
φ1～15㎜ローム10%、φ1～3㎜炭化物5%含む
② 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い
φ1～5㎜ローム3%、φ1～3㎜炭化物3%、φ1～2㎜焼土2%含む
③ 黄褐色土　しまり強い　粘性やや強い　φ1～10㎜ローム8%含む

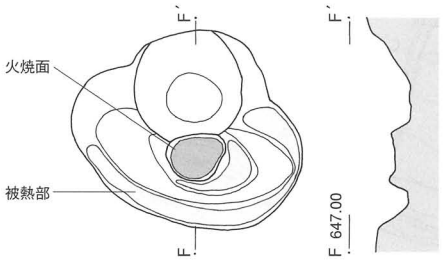




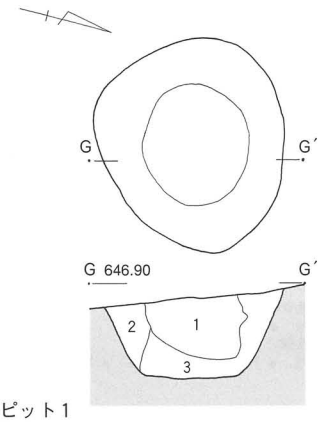


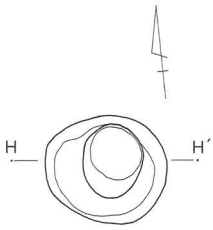


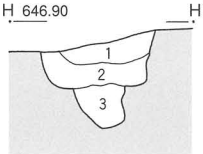
1号住　炉

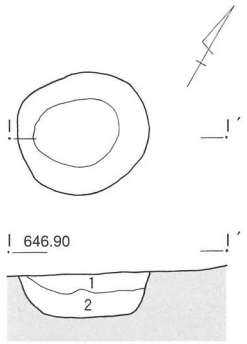


1号住　炉
① 褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
φ1～7㎜ローム5%、φ1～2㎜炭化物1%含む
② 暗褐色土　しまり強い　粘性弱い　φ1～5㎜ローム30%含む
③ 明暗褐色土　しまり非常に強い　粘性弱い
φ1～3㎜ローム1%、φ1～2㎜炭化物1%、φ1～5㎜焼土2%含む
④ 暗褐色土　しまり弱い　粘性弱い　φ1～5㎜ローム5%含む





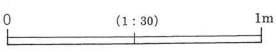




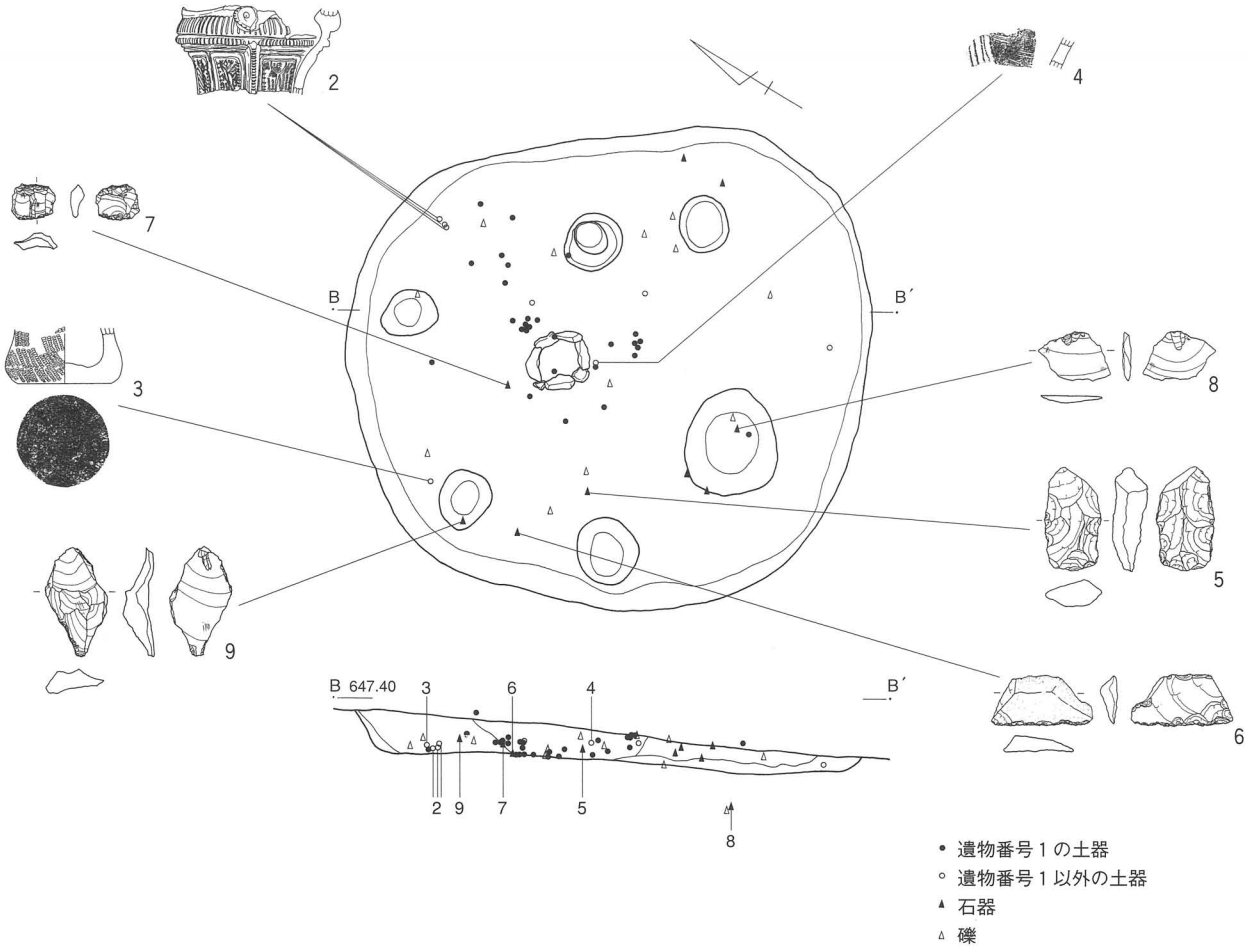
1号住ピット1
① 暗褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～10㎜ローム5%含む
② 明褐色土　しまり強い　粘性やや強い　φ5～25㎜ローム70%含む
ロームの充填
③ 明暗褐色土　しまりやや強い　粘性強い
φ1～5㎜ローム2%、φ1～2㎜炭化物1%含む

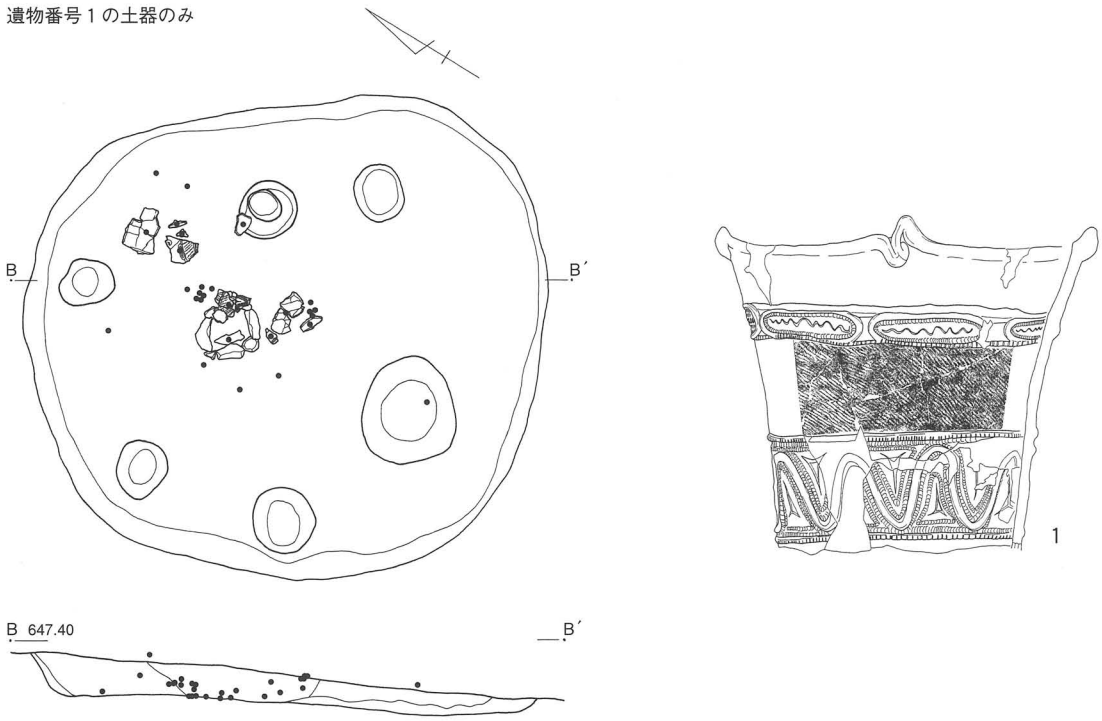
1号住ピット3
① 暗褐色土　しまり強い　粘性やや強い
φ1～2㎜ローム2%、φ1㎜炭化物1%含む
② 明暗褐色土　しまり非常に強い　粘性やや弱い
φ3～7㎜ローム5%、φ3～5㎜PM2%含む　まじりの多い土
③ 暗褐色土　しまり弱い　粘性やや強い　φ5～10㎜ローム2%含む

1号住ピット6
① 黄褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
② 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ1～5㎜ローム2%含む

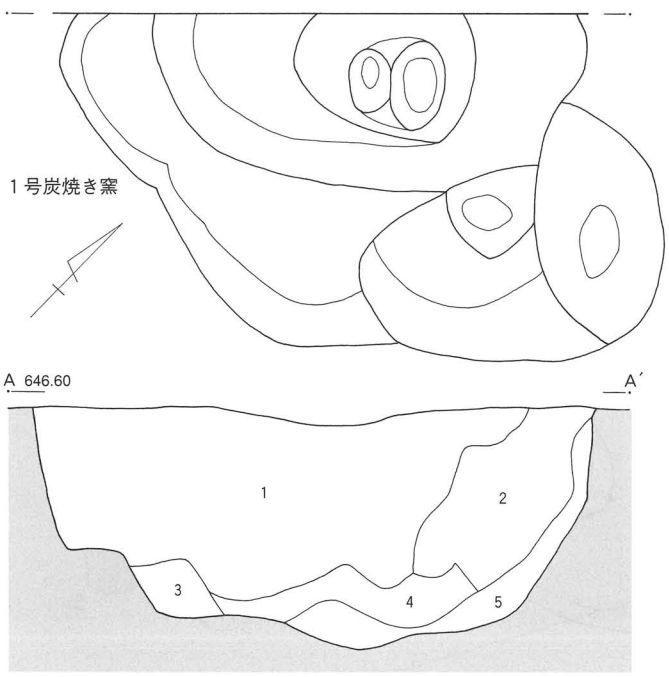


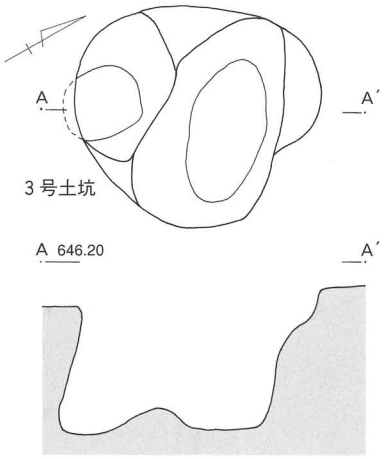
第4図　上日野B遺跡　1号住居跡





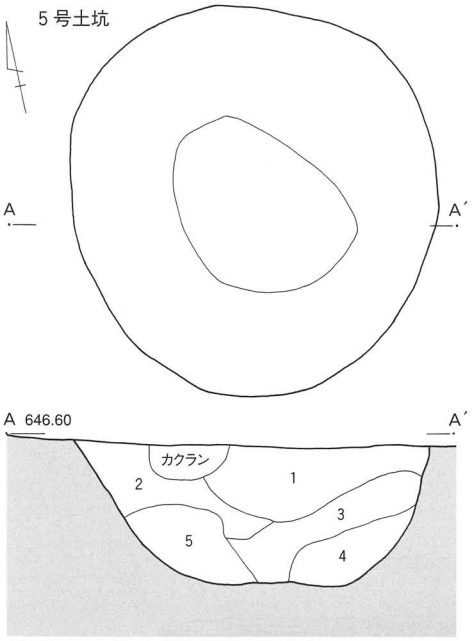
第５図　上日野Ｂ遺跡　１号住居跡遺物出土状況





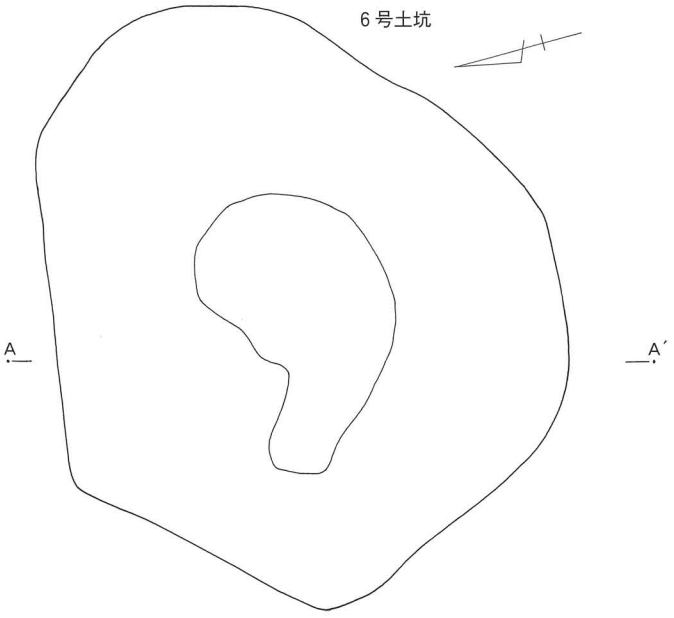
1号炭焼窯

① 暗褐色土　しまり弱い　粘性非常に弱い
　φ1～20㎜炭化物15%、φ1～10㎜焼土5%含む
② 黒褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い
　φ1～3㎜ローム1%、φ1～5㎜炭化物3%、φ1～10㎜焼土3%含む
③ 黒褐色土　しまり弱い　粘性弱い
　φ1～5㎜ローム2%、φ1～5㎜炭化物2%含む
④ 暗褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
　φ1～5㎜ローム5%、φ1～10㎜炭化物10%含む
⑤ 暗褐色土　しまり弱い　粘性弱い　φ1～5㎜ローム10%含む



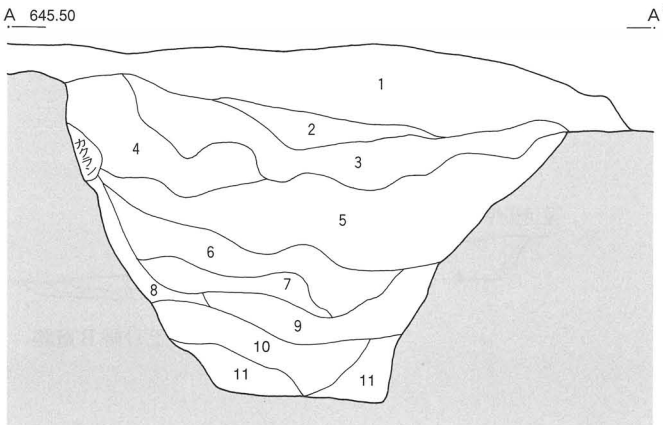
5号土坑

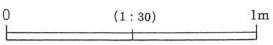
① 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　ローム10%含む
② 暗褐色土　しまり弱い　粘性弱い
③ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い　φ5～10㎜ローム20%含む
④ 褐色土　しまりやや強い　粘性弱い
　φ1～5㎜ローム10%、粘土3%、シルト5%、φ5～15㎜Pm5%含む
⑤ 褐色土　しまり強い　粘性弱い　ローム70%含む



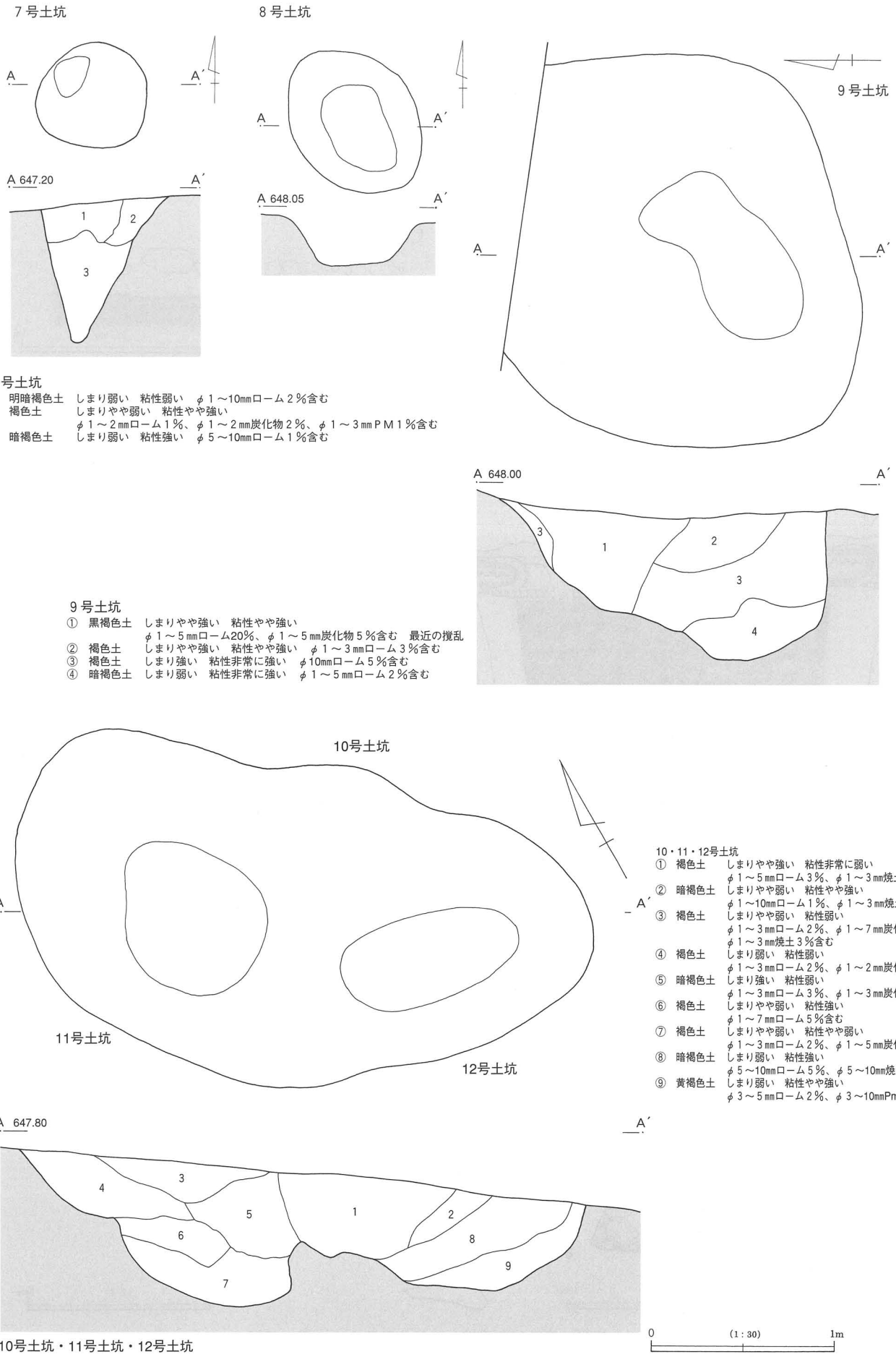
6号土坑

① 表土
② 黒褐色土　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ1～10㎜ローム20%含む
③ 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ10～30㎜ローム40%含む
④ 暗褐色土　しまり弱い　粘性やや弱い　φ1～3㎜ローム1%含む
⑤ 暗褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い
　φ10～30㎜ローム20%、φ5～10㎜ローム5%含む
⑥ 褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
　φ10～40㎜ローム30%、φ1㎜未満白色粒子1%含む
⑦ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い　φ1～5㎜ローム5%含む
⑧ 黄褐色土　しまり非常に強い　粘性強い　φ1～10㎜Pm70%含む
⑨ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い　φローム50%、φ1～5㎜Pm5%含む
⑩ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い　φローム30%、φ40㎜Pm2%含む
⑪ 黄褐色土　しまり強い　粘性強い　φPm80%含む　壁の崩れの堆積であろう





第6図　上日野B遺跡　1号炭焼窯、3号～6号土坑



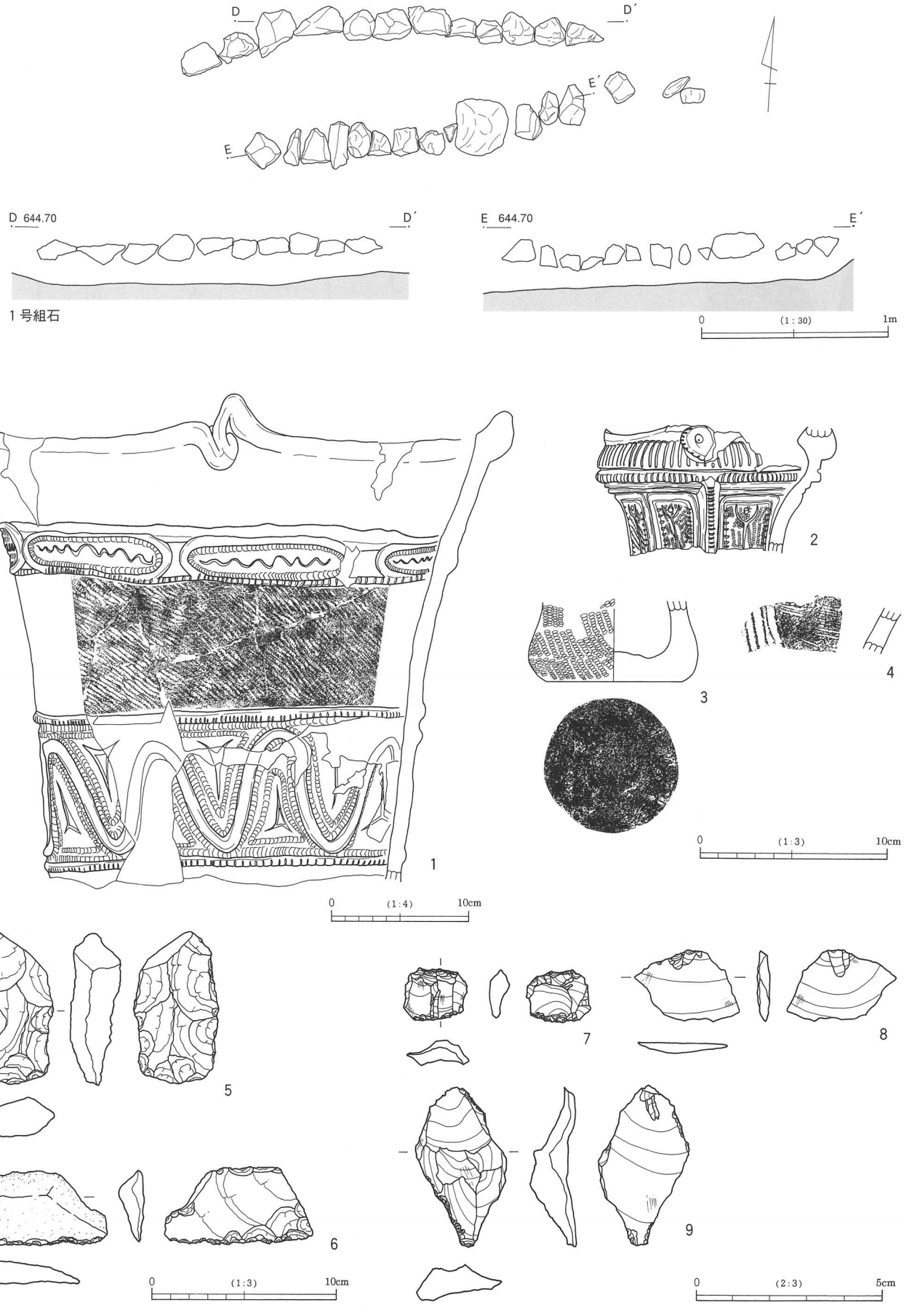
7号土坑
① 明暗褐色土　しまり弱い　粘性弱い　φ1～10㎜ローム2%含む
② 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い
φ1～2㎜ローム1%、φ1～2㎜炭化物2%、φ1～3㎜PM1%含む
③ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い　φ5～10㎜ローム1%含む

9号土坑
① 黒褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い
φ1～5㎜ローム20%、φ1～5㎜炭化物5%含む　最近の撹乱
② 褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い　φ1～3㎜ローム3%含む
③ 褐色土　しまり強い　粘性非常に強い　φ10㎜ローム5%含む
④ 暗褐色土　しまり弱い　粘性非常に強い　φ1～5㎜ローム2%含む

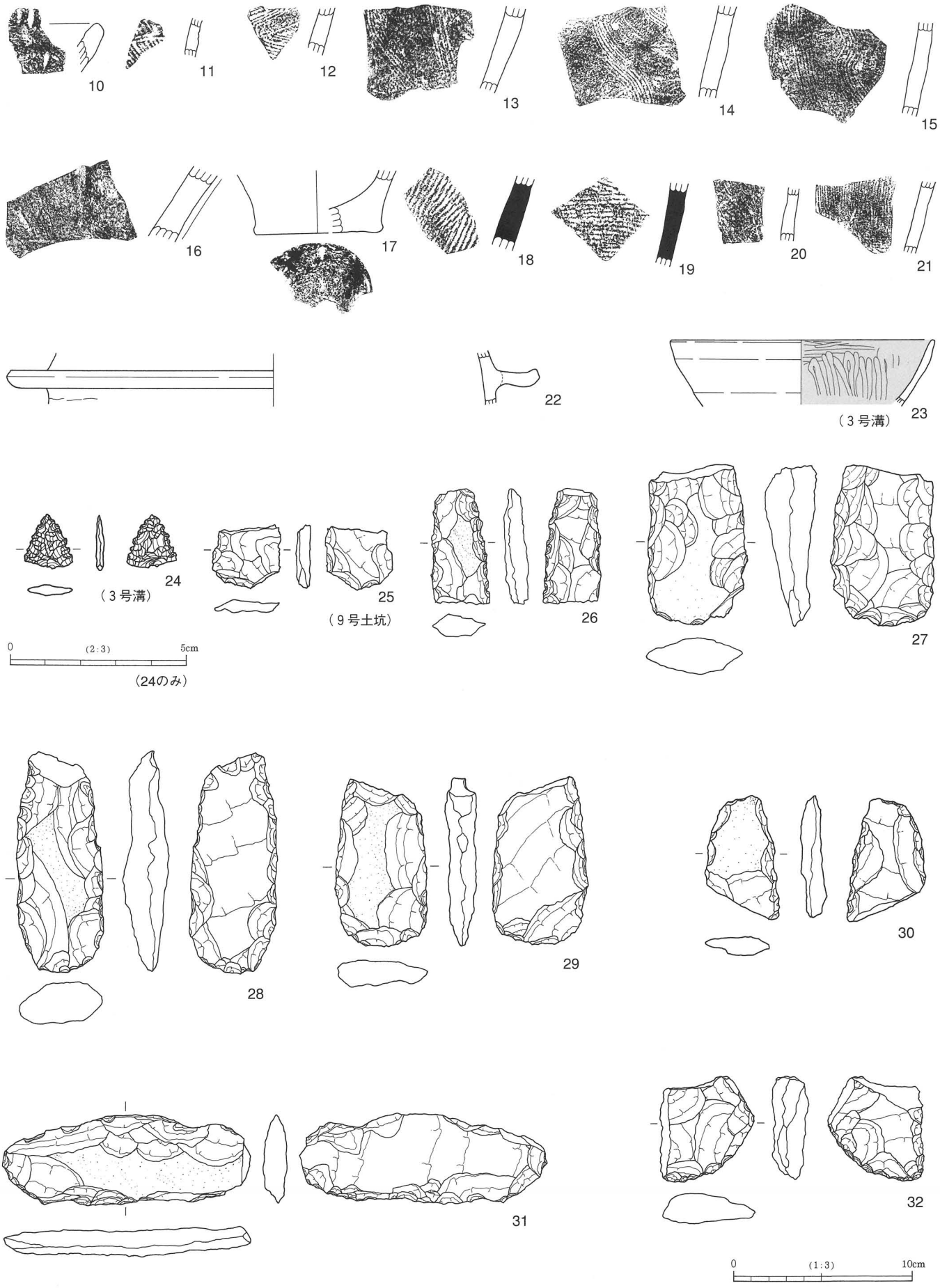
10・11・12号土坑
① 褐色土　しまりやや強い　粘性非常に弱い
φ1～5㎜ローム3%、φ1～3㎜焼土2%含む
② 暗褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い
φ1～10㎜ローム1%、φ1～3㎜焼土1%未満含む
③ 褐色土　しまりやや弱い　粘性弱い
φ1～3㎜ローム2%、φ1～7㎜炭化物5%、
φ1～3㎜焼土3%含む
④ 褐色土　しまり弱い　粘性弱い
φ1～3㎜ローム2%、φ1～2㎜炭化物1%含む
⑤ 暗褐色土　しまり強い　粘性弱い
φ1～3㎜ローム3%、φ1～3㎜炭化物5%含む
⑥ 褐色土　しまりやや弱い　粘性強い
φ1～7㎜ローム5%含む
⑦ 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い
φ1～3㎜ローム2%、φ1～5㎜炭化物3%含む
⑧ 暗褐色土　しまり弱い　粘性強い
φ5～10㎜ローム5%、φ5～10㎜焼土1%含む
⑨ 黄褐色土　しまり弱い　粘性やや強い
φ3～5㎜ローム2%、φ3～10㎜Pm含む

10号土坑・11号土坑・12号土坑

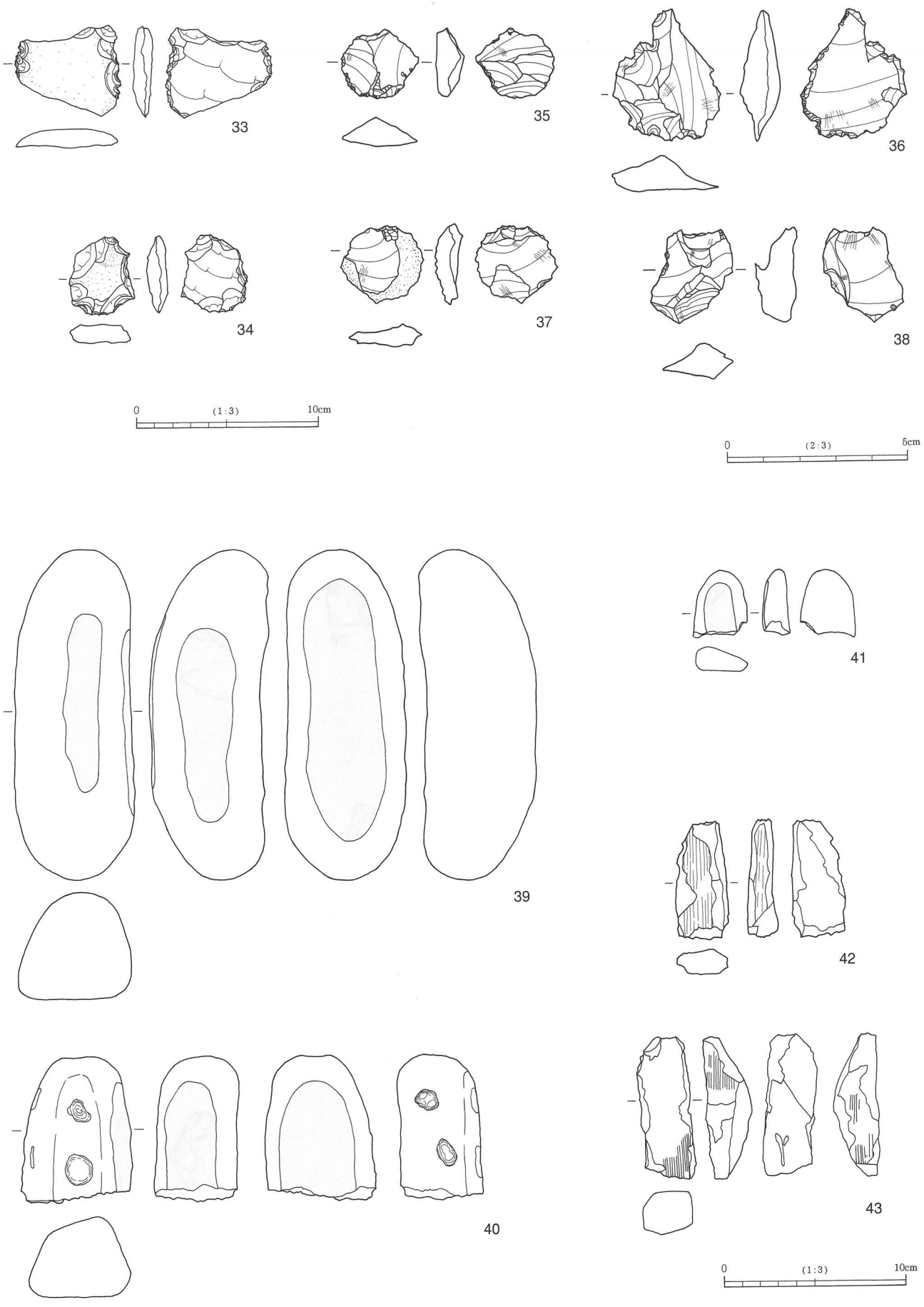
第7図　上日野B遺跡　7号～12号土坑



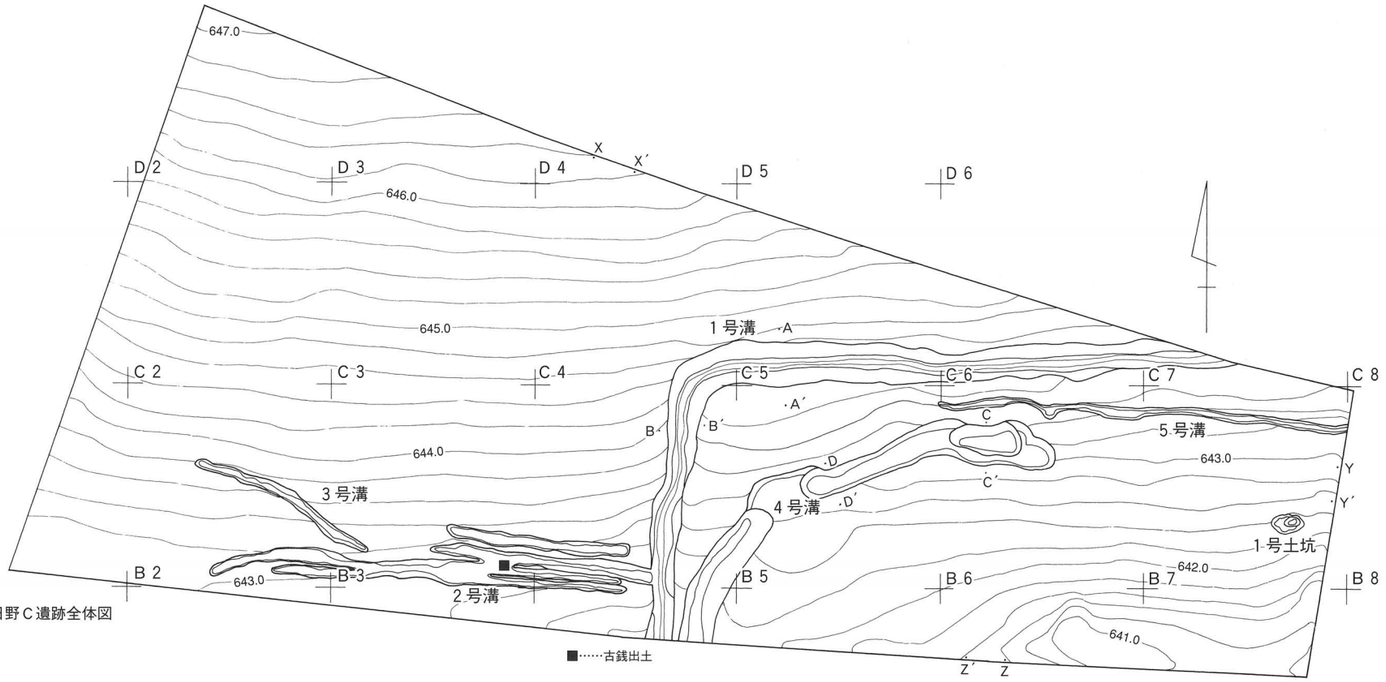
第8図　上日野B遺跡組石遺構　1号住居跡出土土器・石器



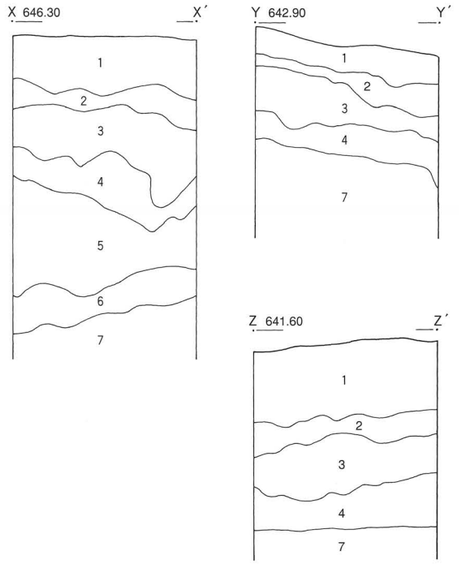
第9図　上日野B遺跡　出土土器・石器（1）



第10図　上日野Ｂ遺跡　出土石器（２）

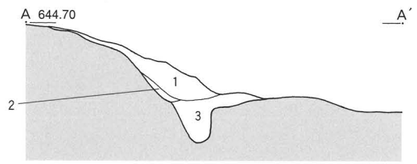


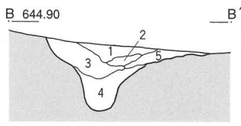
上日野Ｃ遺跡全体図



基本層序

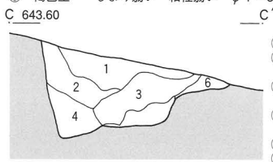
① 表土
② 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い　φ１～２㎜ローム２％含む
③ 黄褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ５㎜ローム５％含む
④ 黄褐色土　しまり強い　粘性弱い
⑤ 黄褐色土　しまり非常に強い　粘性やや強い　ハードローム
⑥ 黄褐色土　しまり非常に強い　粘性強い　φ１㎜以下白色粒子３％含む
⑦ 黄褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ１㎜以下白色粒子３％含む　地山





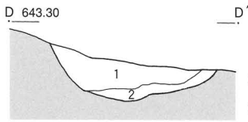
1 号溝Ａ・Ｂ

① 褐色土　しまり弱い　粘性やや弱い　φ１㎜以下ローム１％、φ１～３㎜炭化物２％含む
② 暗褐色土　しまり弱い　粘性やや弱い　φ１～２㎜ローム１％、φ１～５㎜炭化物３％含む
③ 褐色土　しまりやや強い　粘性やや弱い　φ１～３㎜ローム７％含む
④ 暗褐色土　しまり弱い　粘性やや弱い　φ１～３㎜ローム２％、φ１～３㎜炭化物２％含む
⑤ 褐色土　しまり弱い　粘性弱い　φ１～30㎜ローム30％含む　人為的な埋土



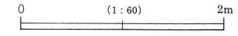
① 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや強い
② 褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ１㎜ローム５％含む
③ 黒褐色土　しまり強い　粘性やや強い　φ１㎜ローム５％含む
④ 暗褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い　φ３㎜ローム10％含む
⑤ 黄褐色土　しまり強い　粘性強い
⑥ 暗褐色土　しまり強い　粘性弱い　混じりなし

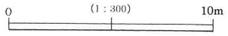
4 号溝Ｃ

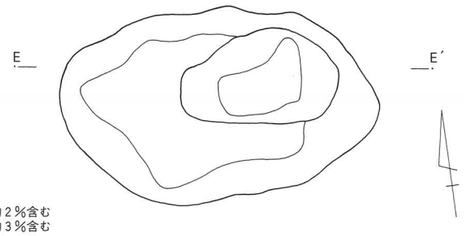


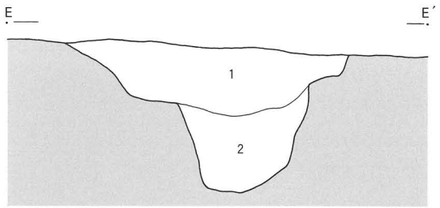
① 暗褐色土　しまりやや弱い　粘性やや弱い　φ１㎜ローム１％未満含む
② 褐色土　しまりやや強い　粘性やや強い　φ１～３㎜ローム３％含む

4 号溝Ｄ



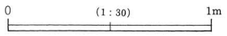




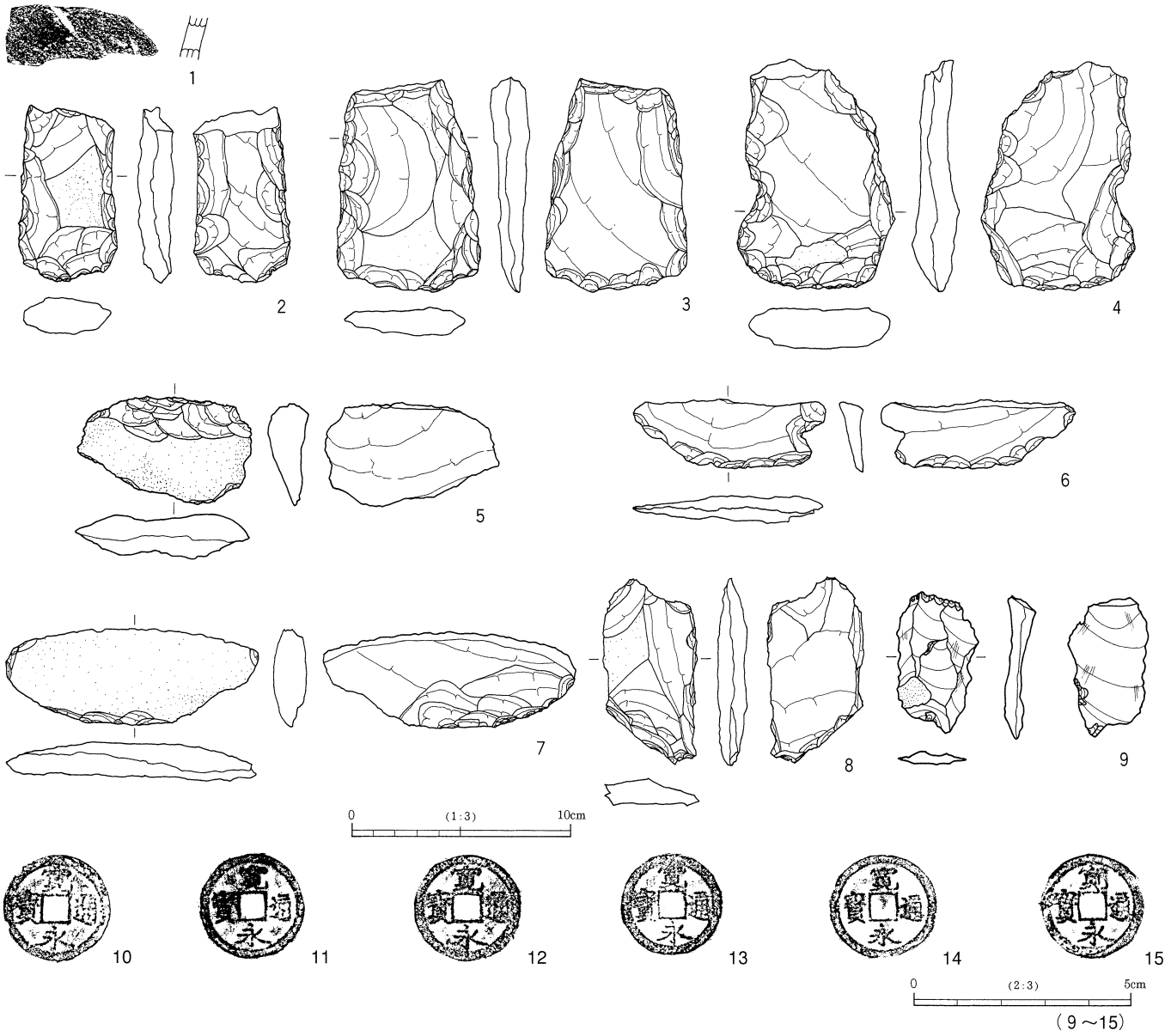


1 号土坑

① 暗褐色土　しまり弱い　粘性非常に弱い　φ１～５㎜ローム５％、φ１㎜炭化物１％含む
② 褐色土　しまり非常に弱い　粘性非常に弱い　φ１～20㎜ローム20％、φ１～３㎜Pm３％含む　埋土と思われる



第11図　上日野Ｃ遺跡全体図、基本層序、１号溝・４号溝セクション図、１号土坑



第12図　上日野Ｃ遺跡　遺構外出土土器・石器

第２表　上日野Ｃ遺跡出土土器集計表

	１号溝	B－04	C－03	C－04	C－05	C－06	合計
縄文		3					3
平安	1	1					2
中～近世						1	1
近代以降	2		1	1	1		5
不明			1				1
合計	3	4	2	1	1	1	12

第３表　上日野Ｃ遺跡土器観察表

図版番号	遺物番号	出土位置	時　代	時　期	器　種	器形	部　位	重量	胎　　土	色　　調	調　　整
第12図	1	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	23.8	長石、石英、白色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい褐　内：褐	

第４表　上日野Ｃ遺跡石器観察表

図版番号	遺物番号	出土位置	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量	石　　材	備　　考
第12図	2	遺構外	打製石斧	(8.1)	4.6	1.7	70.8	砂岩	
第12図	3	遺構外	打製石斧	(9.9)	6.6	1.8	110.3	ホルンフェルス	
第12図	4	遺構外	打製石斧	(10.6)	7.1	2.1	148.4	ホルンフェルス	
第12図	5	遺構外	剥片	4.9	8.0	1.8	76.9		横刃石器の未製品か？
第12図	6	遺構外	剥片	3.2	8.8	1.1	30.2	砂岩	ドリル（？）
第12図	7	一括	横刃石器	4.3	11.4	1.5	104.8	凝灰岩	一部欠損
第12図	8	一括	剥片	8.6	4.4	1.4	46.9	頁岩	二次調整あり
第12図	9	遺構外	剥片	3.3	1.9	0.7	2.3	黒曜石	二次調整あり

（　）は残存値を表す

第５表　上日野Ｂ遺跡出土土器集計表

	1号住	10号土	1号溝	2号溝	3号溝	1号組石	B－07	B－08	C－03	C－04	C－06	C－07	C－08	D－04	D－05	D－06	D－07	D－08	E－04	E－05	E－06	E－07	F－05	F－06	F－07	合　計
縄文	33	1	4	4	3	1			1	2		4		2		6	6	2	1	3	5	3	1	1	1	84
平安			1		9		1			1	3	7	1		1	5	4	3		2	1					39
中世																1										1
中～近世				1												2						3			2	8
近世	1				7		1			1	1	3				3	2	2			2					23
近代以降	1		2		2		4			1	5	11	3	1	1	9	18	14	2	1	4	4	1		3	87
不明	2							1						1		1				1						6
合　計	37	1	7	5	21	1	6	1	1	3	9	21	4	2	2	21	24	19	2	4	7	7	1	0	5	248

第６表　上日野Ｂ遺跡土器観察表

図版番号	遺物番号	出土位置	時　代	時　期	器　種	器形	部　位	重量	胎　　土	色　　調	調　　整
第８図	1	１号住	縄文	中期中葉		深鉢	口縁～胴部	5742.9	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい褐　内にぶい褐	
第８図	2	１号住	縄文	中期中葉		深鉢	口縁～胴部	50.9	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：明赤褐　内：灰褐	
第８図	3	１号住	縄文	中期		深鉢	底部	75.2	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外:にぶい橙、内:褐灰、底:橙	
第８図	3	１号住	縄文	中期		深鉢	底部	268.9	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：赤褐、明赤褐　内：黒褐　底：明赤褐	
第８図	4	１号住	縄文	中期後半		深鉢	胴部	31.0	長石、石英、黒雲母、金雲母、黒色粒子を含む	外：明赤褐　内：橙	
第９図	10	遺構外	縄文	中期中葉		深鉢	口縁	10.7	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい褐　内にぶい褐	
第９図	11	遺構外	縄文	中期中葉		深鉢	胴部	5.6	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：赤褐　内にぶい赤褐	
第９図	12	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	7.8	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい黄橙　内：にぶい黄橙	
第９図	13	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	43.3	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい黄橙　内：にぶい黄橙	
第９図	14	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	53.5	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい黄橙　内：にぶい黄橙	
第９図	15	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	41.1	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい黄橙　内：にぶい黄橙	
第９図	16	遺構外	縄文	中期後半		深鉢	胴部	68.1	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：橙　内：橙	
第９図	18	遺構外	平安		須恵器	甕	胴部	28.6	長石、黒色粒子を含む	外：灰　内：オリーブ灰	外：タタキメ
第９図	19	遺構外	平安		須恵器	甕	胴部	27.6	長石を含む	外：褐灰、灰褐　内：灰	
第９図	20	遺構外	中～近世				胴部	13.4	長石、石英、黒雲母、白色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい褐　内：にぶい褐	
第９図	21	遺構外	中～近世		土師器	内耳土器	胴部	16.6	長石、石英、白色粒子、黒色粒子を含む	外：にぶい褐　内：にぶい褐	
第９図	22	遺構外	平安		土師器	羽釜	胴部	31.4	長石、石英、黒雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子を含む	外：橙、黒　内：オリーブ黒	外：ロクロナデ　内：ロクロナデ、みがき
第９図	23	３号溝	平安		土師器	坏	口縁～胴部	14.7	長石、石英、金雲母を含む	外：にぶい褐　内：黒	外：ロクロナデ　内：ロクロナデ、みがき

第７表　上日野Ｂ遺跡石器観察表

図版番号	遺物番号	出土位置	器　種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重　量	石　　材	備　　考
第８図	5	１号住	打製石斧	(8.3)	(4.5)	2.8	86.4	花崗岩	
第８図	6	１号住	横刃形石器	4.1	8.0	1.4	40.9	ホルンフェルス	
第８図	7	１号住	楔形石器	1.5	1.7	0.6	1.3	黒曜石	
第８図	8	１号住	剥片	2.0	2.9	0.4	1.8	黒曜石	二次調整あり
第８図	9	１号住	剥片	4.4	2.5	1.2	6.8	黒曜石	ドリル（？）
第９図	24	３号溝	石鏃	(1.5)	(1.4)	0.2	0.5	黒曜石	一部欠損
第９図	25	９号土	剥片	(3.6)	3.8	0.9	12.3	砂岩	二次調整あり
第９図	26	遺構外	打製石斧	(6.6)	3.3	1.3	33.6	ホルンフェルス	
第９図	27	遺構外	打製石斧	(9.3)	(5.7)	(2.9)	155.8	砂岩	
第９図	28	遺構外	打製石斧	12.6	5.0	2.6	159.4	流紋岩	
第９図	29	遺構外	打製石斧	(9.5)	(5.3)	1.9	113.4	凝灰岩	
第９図	30	遺構外	打製石斧	(7.1)	(4.3)	1.6	38.6	ホルンフェルス	
第９図	31	遺構外	横刃形石器	5.1	14.0	1.7	114.9	頁岩	
第９図	32	遺構外	剥片	6.0	5.3	2.1	66.6	砂岩	二次調整あり
第10図	33	遺構外	剥片	5.1	5.9	1.1	32.8	凝灰岩	二次調整あり
第10図	34	遺構外	剥片	4.4	3.8	1.1	19.8	凝灰岩	二次調整あり
第10図	35	遺構外	剥片	2.0	2.2	0.8	2.0	黒曜石	二次調整あり
第10図	36	遺構外	剥片	2.2	2.3	0.8	2.1	黒曜石	二次調整あり
第10図	37	遺構外	剥片	3.7	2.9	1.1	6.9	黒曜石	二次調整あり
第10図	38	遺構外	剥片	2.7	2.3	1.1	5.0	黒曜石	二次調整あり
第10図	39	遺構外	磨石	18.4	6.8	6.6	1233.0	砂岩	
第10図	40	１号住	磨石	(8.1)	6.3	4.7	386.9	砂岩	石囲炉の炉石として使用
第10図	41	遺構外	小型磨石	(3.7)	3.0	1.4	20.0	砂岩	二次調整あり
第10図	42	遺構外	砥石	(6.6)	3.0	1.7	39.1		
第10図	43	遺構外	砥石	(7.9)	3.2	2.7	68.1		

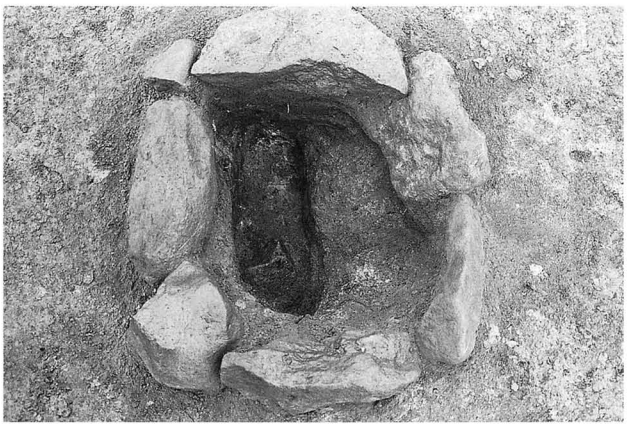
（　）は残存値を表す

上日野Ｂ遺跡遠景（南より八ヶ岳を望む）

上日野Ｂ遺跡全景

図版 2

1 号住居跡　完掘状況



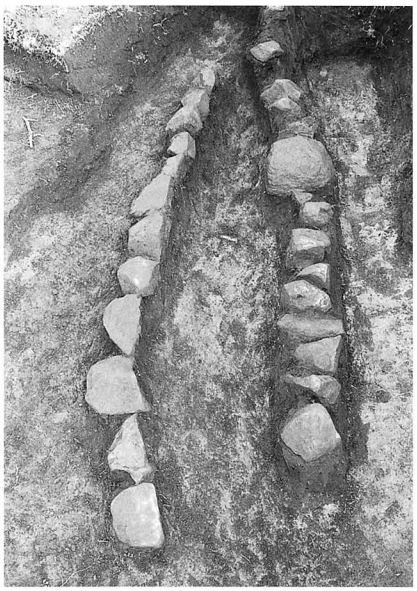
1 号住居跡　石囲炉

1 号住居跡　遺物出土状況①

1 号住居跡　遺物出土状況②

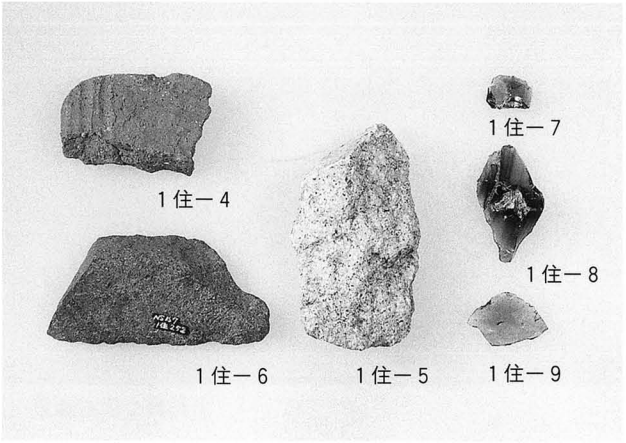
1 号住居跡　遺物出土状況③

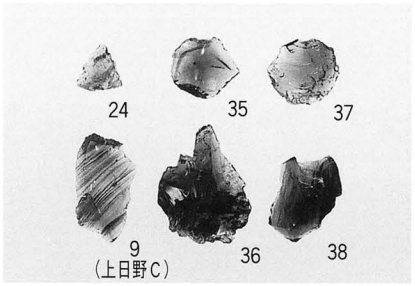
1 号溝

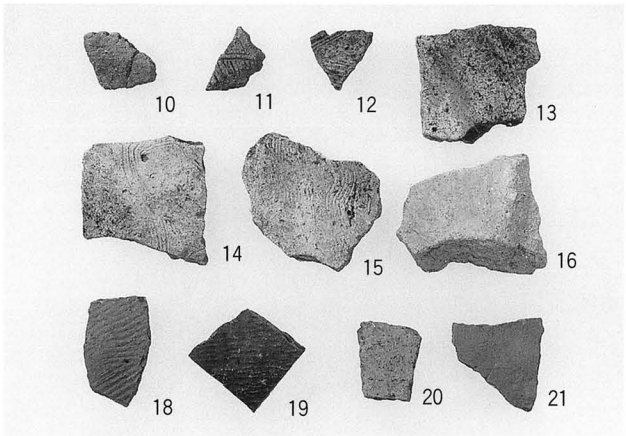


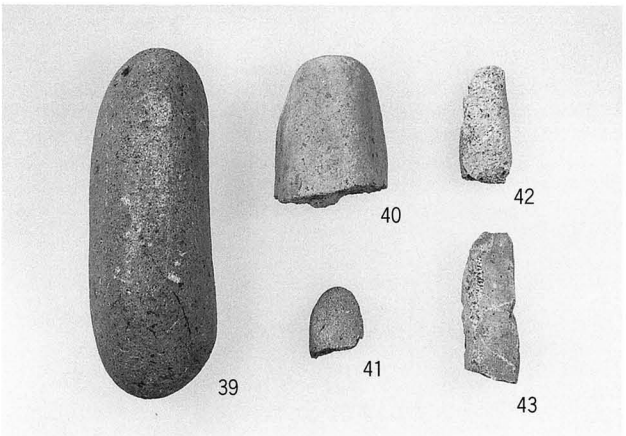
1 号石組遺構

1 号炭焼き窯









上日野Ｂ遺跡　出土土器・石器

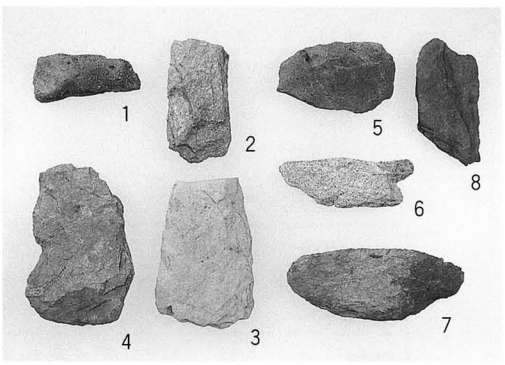
図版 4

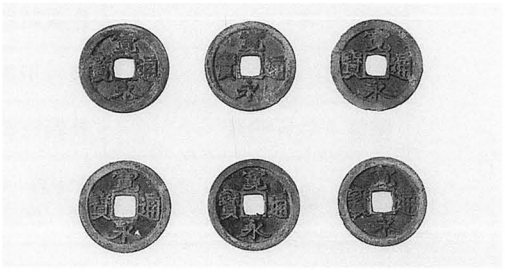
上日野Ｃ遺跡遠景（東より南アルプスを望む）

上日野Ｃ遺跡全景

１号溝（西から）

１号溝（南から）





上日野Ｃ遺跡出土土器・石器・古銭

調査風景

調査風景

報告書抄録

フリガナ	ウワビノビーイセキ・ウワビノシーイセキ　ハックツチョウサホウコクショ
書名	上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡　発掘調査報告書
副題	基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第27集
著者名	長谷川誠
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19 ℡　0551－32－2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381－0012　長野県長野市柳原2133－５
発行日	2003年３月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町日野字上日野
遺跡番号	長坂町　№157（上日野Ｂ）、№158（上日野Ｃ）
1／25,000地図名 位置・標高	若神子 上日野Ｂ 北緯35° 47′ 50″　東経138° 22′ 35″　標高644～648m 上日野Ｃ 北緯35° 47′ 49″　東経138° 22′ 39″　標高641～647m
調査原因	基盤整備促進事業（日野地区）
調査期間	上日野Ｂ：2002年12月３日～2002年12月26日 上日野Ｃ：2003年１月７日～2003年２月７日
調査面積	上日野Ｂ：1,530㎡ 上日野Ｃ：1,325㎡
主な時代	縄文時代
主な遺構	上日野Ｂ：住居跡（縄文時代中期中葉）１軒、土坑11基、溝７条 上日野Ｃ：土坑１基、溝５条
主な遺物	上日野Ｂ：土器、石器（縄文時代） 土師器、須恵器（平安時代） 内耳鍋、陶磁器（中～近世） 上日野Ｃ：土器、石器（縄文時代） 土師器（平安時代） 陶磁器（近世）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書　第27集

上日野Ｂ遺跡・上日野Ｃ遺跡

2003年３月25日　印刷
2003年３月31日　発行

編集・発行　長坂町教育委員会
〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19
TEL　0551－32－2111（代）
印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
TEL　026－244－0235（代）